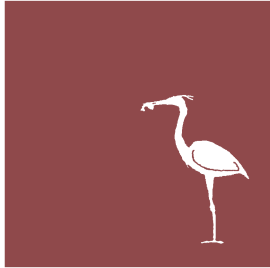


浦幌町立博物館

年報

第14号



Historical Museum of Urahoro

2013

11

浦幌町立博物館

年報

第14号



Historical Museum of Urahoro

2013

11

序

『浦幌町立博物館年報』14号をお届けします。本書は、20012（平成24）年度における本館の活動状況を取りまとめたものです。平成24年度は、白亜紀と古第3紀境界層（K-T）直下の異常巻きアンモナイト調査や、「過去の巨大津波海成地層標本展」をはじめとした企画展、本町の自然・文化財を素材とした学校支援活動や「うらほろスタイル・ゼミナール」等の博物館講座、移動講座等を展開して参りました。それぞれの事業内容につきましては、本書をご一読していただければ幸いに存じます。本館におきましては、充実した1年であったと考えております。

博物館は、地域の歴史や文化、自然など共有の財産の保護、活用を図り、これらに関する調査研究を通じて、生涯学習の場として町民の皆様に情報を提供して、長い年月にわたって築き上げられた貴重な財産を次の世代に引き継ぎ、伝えていくことが大きな役割と考えております。

しかしながら、地方自治をとりまく環境は一段と厳しく、本町におきましても厳しい財政事情となっております。専任学芸員の配置など、解決しなければならない課題はありますが、地域や学校等と連携し、郷土の魅力を再認識していただけるよう皆様により親しまれる博物館活動を展開して参りたいと思います。

最後になりましたが、本館の管理運営に種々ご指導頂きました町民の皆様をはじめ、博物館協議会委員、各種講座の講師の方々、並びに貴重な資料を提供して頂きました皆様、企画展・各種講座等に足を運んで下さった多くの皆様に深く感謝を申し上げ、序といたします。

2013年11月

浦幌町立博物館長 佐 藤 芳 雄

● 本文目次

序	i
目次	ii
I. 施設の概要	1
II. 常設展示構成	2
III. 資料の受け入れ	13
(1) 受贈資料	13
(2) 採集資料	14
(3) 受贈図書資料	15
IV. 資料の提供	22
V. 博物館の事業	23
VI. レファレンス業務	37
VII. 博物館ボランティア	37
VIII. 博物館日誌(抄)	38
IX. 博物館の利用状況	47
X. 博物館の組織	48
XI. 博物館活動のマスコミ報道	49
XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程	84
XIII. 平成24年度予算	96

● 写真目次

PL. 1 春の渡り鳥観察会	29
PL. 2 春の草花観察会「ウラホロイチゲ」	29
PL. 3 端午の節句展	29
PL. 4 ミニ移動講座「浦幌の史跡」	30
PL. 5 金星食観察会	30
PL. 6 動物写真展「十勝沖の動物たち」	30
PL. 7 博物館出前講座「上浦幌PTA移動研修」K-T境界層見学等	31
PL. 8 博物館講座「昆虫採集会」	31
PL. 9 子ども考古学講座	31
PL.10 上浦幌中央小学校「総合学習」	32
PL.11 ミニ移動講座「海底だった頃の浦幌」	32
PL.12 三世代交流博物館講座	32
PL.13 子どもヒグマの学校	33
PL.14 小企画展「和歌山・美しい自然美展」	33
PL.15 初心者アイヌ刺繍教室	33
PL.16 アカゲラBOX	34
PL.17 冬休み体験講座「化石のレプリカづくり」	34
PL.18 植物標本づくり教室	34
PL.19 全国孔版画展	35
PL.20 浦幌小学校3年「昔の道具」	35
PL.21 ロビーコンサート「歌声サロン」	35
PL.22 雛人形展	36
PL.23 うらほろスタイルゼミナール「浦幌の海成堆積物から探る大津波」	36
PL.24 うらほろスタイルゼミナール「サーミの文化を語る」	36

● 図版目次

Fig. 1 常設展示ゾーニング図	5
Fig. 2 ヒグマシンボル図	5
Fig. 3 K-T境界	6
Fig. 4 十勝川下流域の地質時代史	6
Fig. 5 北海道の初期の土器文化	7
Fig. 6 シベリアから来た石刃鏃文化	7
Fig. 7 十勝太若月遺跡土坑墓配置図	8
Fig. 8 続縄文文化と墓	8
Fig. 9 擦文ムラと住居	9
Fig. 10 擦文文化の鉄と農耕	9
Fig. 11 いろいろな土器	10
Fig. 12 いろいろな石器	10
Fig. 13 チャシ	11
Fig. 14 送り場	11
Fig. 15 トカチの成立とトカチ場所	12
Fig. 16 オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	12

I. 施設の概要

名 称 浦幌町立博物館 (英文表記 Historical Museum of Urahoro)

所 在 地 〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地 1

電 話 015-576-2009 (直通) 015-576-2111 (代) 内線542

ファックス 015-576-2452

ホームページアドレス

<http://www.urahoro-kyouiku.jp>

メールアドレス

museum@urahoro.jp

建 物 構 造 鉄筋コンクリート造・地上2階建 最高の高さ 10.45m (最高軒高 9.70m)

総 工 費 983,514千円 (備品購入費を含む)

敷地面積 4,575.907㎡

建築面積 1,804.34㎡

延床面積 2,542.17㎡ (1階:1,518.48㎡ 2階:1,023.69㎡)

博物館単独スペース

常設展示室	378.56㎡
学芸員室	45.50㎡
整理室	78.40㎡
写真室	19.50㎡
収蔵庫	71.50㎡
計	593.46㎡

博物館・図書館・教育委員会事務局共有スペース

視聴覚室	172.90㎡
調整室	19.98㎡
キッズルーム	7.29㎡
1階ホール	182.17㎡
2階ホール	166.50㎡
会議室	63.00㎡
書庫	29.75㎡
機械室	31.08㎡
休憩室	11.55㎡
計	684.22㎡

駐 車 場 正面 普通乗用車用 23台分 (うち身体障害者用 2台分)

裏面 普通乗用車用 19台分

計 42台分

開館時間 午前10時～午後5時

休 館 日 月曜日 (月曜日が国民の休日の場合は翌日)・国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く・年末年始・その他館長が認めた日

入 館 料 無料

交 通 ・J R根室線浦幌駅下車 徒歩5分
・とかち帯広空港から車で約60分

施設設備 エレベーター 1基
車椅子 2台

常設展示室設備

プロローグ音響システム

I. 施設の概要

アオサギ営巣地ジオラマ音響システム

DVDによる100インチ映像システム

浦幌町の概要紹介（町の概要・町の花鳥木・産業・イベント・文化・歴史）

5つのエリア（上浦幌・中浦幌・市街地・下浦幌・東部地区）

施設紹介メインマップ

映像情報メニュー（遺跡探検・浦幌川河口から源流まで・野鳥観察・浦幌の四季）

ポイント情報メニュー（自然観察・先史遺跡・チャシ跡観察ポイント）

DVD映像システム（うらほろの歴史・十勝ゆかりの人々・地図でたどるうらほろ）

開拓獅子舞音響システム

II. 常設展示構成

博物館の常設展示は、次の6コーナーで構成されている。

I. 自然からのメッセージ（プロローグ）

II. アオサギの世界

III. 十勝・浦幌の自然誌

IV. 石器と土器の文化

V. アイヌの暮らし

VI. 十勝・浦幌のあゆみ

これらのコーナーはそれぞれ、次のような展示から構成される。

I	1	魚	ヤマメ、イワナ、フクドジョウ、イバラトミヨ、ハナカジカ、イトウ、チョウザメ
	2	昆虫	
	3	鳥	オオヒシクイ、ノスリタカ、クマゲラ、キレンジャク、ヤマセミ、オオルリ、アマサギ、カワアイサ②
	4	花	ウラボロイチゲ
II	1	アオサギの世界	アオサギジオラマ展示、採捕中のアオサギ、飛行中のアオサギ
	2	浦幌町の自然	月別平均気温と雨量、浦幌の四季
	3	鳥類個体展示	エゾフクロウ、オオコノハズク、コノハズク、クマタカ、カケス、アカショウビン、コルリ、メジロ、センダイムシクイ、ツミタカ、チゴハヤブサ、エゾライチョウ♂、エゾライチョウ♀、マガモ、コガモ、オシドリ、オオワシ②
III	1	デジタルマップ100インチ映像システム	(1) 浦幌町の概要紹介〔町の概要、町の花・鳥・木、町の産業、祭り、文化など〕 (2) 5つのエリア〔上浦幌地区・中浦幌地区・市街地・下浦幌地区・東部地区〕 (3) 施設紹介メインマップ〔メインマップ、マップのズームアップ、市街地マップ、施設情報〕

III	1	デジタルマップ100インチ映像システム	(4) 映像情報メニュー〔遺跡探検、浦幌川－河口から源流まで、野鳥観察、浦幌の四季〕 (5) ポイント情報メニュー〔自然観察ポイント、先史遺跡ポイント、チャシ跡観察ポイント〕
	2	十勝川下流域の地質時代史	十勝川下流域の河岸段丘
	3	十勝川下流域の地質時代史	K - T境界、デスモスチルス想像図、デスモスチルス臼歯化石③、シンカイヒバリガイ化石、アロデスミス化石（レプリカ）
IV	1	発掘の様子	発掘前、測量、表土の剥ぎ取り、発掘、住居跡覆土採取用メッシュ、住居跡の発掘、地層の図面づくり、出土した土器、固形剤塗り、住居床面の土の採取、住居跡全景、実測、土の天日乾燥、極小品の選別②、ラジコンヘリコプターによる空中撮影・整理・水洗い、図面づくり、報告書の完成
	2	十勝太若月遺跡土坑墓	土坑墓ジオラマ展示
	3	北海道の先史文化のうつりかわり	図入り年表
	4	北海道の初期の土器文化	研究のはじめ、尖底土器と平底土器、河野広道、澤四郎、テンネル・晩式土器群、下頃辺式土器
	5	シベリアから来た石刃鏃文化	研究のはじめ、北海道の石刃鏃文化遺跡、シベリアの石刃鏃文化遺跡、斎藤米太郎、名取武光、浦幌式土器、石刃鏃、石核、石錐、搔器、削器、石刃槍、彫器、石錘、砥石、敲石、石斧
	6	縄文文化と墓	縄文文化と十勝太若月遺跡、墓の大きさ比べ、土坑墓52の配置図、十勝太若月遺跡の土坑墓、縄文時代前期の土器、後北CⅠ式土器、コハク製玉類、ガラス小玉、砥石、銚先
	7	擦文ムラと住居	住居と生活用具、十勝の擦文文化遺跡、擦文文化の遺跡分布、十勝太若月遺跡、十勝太地区の擦文住居跡分布、擦文住居の復元図、擦文土器、柱、木器、紡錘車
	8	擦文文化の鉄と農耕	鉄と農耕の普及、全道各地出土の鍬の羽口、擦文時代の植物栽培図、鉄斧、刀子、鉄滓、オオムギ・キビ・シソの炭化種子、オニグルミ堅果
	9	いろいろな土器	縄文文化と土器、作り方、形、文様、変遷
	10	いろいろな石器	石器の材料、作り方、黒曜石原材産地、使い方
	11	十勝の著名遺跡	八千代A遺跡、下大樹遺跡、十勝ホロカヤントー堅穴群、ユクエピラチャシ跡、広尾仙台藩陣屋跡
	12	土器の個体展示	縄文土器⑥、縄文土器⑥、擦文土器⑥
V	1	アイヌの暮らし	アイヌ酒宴の図、マレク漁の図、蝦夷島奇観
	2	チャシ	史跡オタフンベチャシ跡、礼文内神社チャシ跡、アツナイチャシ跡、チプネオコッペチャシ跡、十勝川口チャシ跡、十勝太Dチャシ跡、旅来チャシ跡、安骨チャシ跡、霧止山チャシ跡、帯富チャシ跡、稲穂チャシ跡
	3	伝製品	シントコ③、イタ、ニンカリ、イクパスイ③、タマサイ③、ツキ、バッチ、エムシ
	4	送り場	十勝太海岸段丘遺跡出土品

II. 常設展示構成

VI	1	トカチの成立とトカチ場所	正保日本図、トカチ場所の主な産物、松浦武四郎、最上徳内、近藤重蔵、トカチ御場所山川沼地名里数粗絵図扣
	2	オヘチコカシ村の成立と初期の開墾	7郡51ヶ村のうつりかわり、殖民地区画作業、河合牧場、岐阜農場、開墾風景、サケ漁、斎藤漁場
	3	新しいムラづくり	下浦幌市街都市計画図、明治43年主要市街地戸数人口、戸長役場、浦幌駅開業、第一浦幌尋常小学校と養老尋常小学校との連合運動会、黒岩農場、斎藤牧場
	4	新しいマチづくり	昭和27年十勝沖大震災で震度7を記録、昭和24年ころの市街大通り、開村50年記念乳牛共進会、校内マラソン、昭和35年チリ地震による津波の被害、森永乳業、ロランC局、市街商店街、開町70年記念パレード、十勝バス運行風景
	5	着る	蓑、くけ台、ミシン、火のし、ハンドバッグ、開墾たび、アイロン、バスケット、深わら靴
	6	食べる	膳、櫃、食器、木鉢、砂糖入れ、重ね鉢、弁当箱、石臼、壺、鉄びん、カツオ削り器、野菜削りカンナ
	7	住む	ローソク立て、自在鍵、石油ランプ、柱時計、手下げランプ、ネズミ捕り、電気アンカ、薬箱
	8	農	亜麻播種器、一斗杵、からさお、風呂鍬、窓鍬、平鍬、豆播種器
	9	林	トビ、村田銃、ガンタ、サッティ、刃広、くさび、杙打ち用具、窓鋸、天王寺鋸
	10	鋤	キャップランプ、革手袋、ベルト、ガス自動警報器、測風器微風計、工類表入れ、工類表、安全靴、携帯用ガス警報器、風測計、携帯用坑内誘導無線機、カンテラ、一酸化炭素検知管、救命器
	11	浦幌開拓獅子舞	住吉神社と加賀団体開拓記念碑、浦幌開拓獅子舞、浦幌開拓獅子舞の獅子頭、稲穂獅子舞の獅子頭、初期の浦幌開拓獅子舞の姿、浦幌開拓獅子舞おはやしの音響
	12	生活資料ディスプレイ	ラジオ、選択バサミ、算盤、下駄、かんじき、ノンコ、SPレコード盤、藁靴の型、提灯用箱、湯たんぽ、壁付け式電話
	13	37インチ映像コーナー	うらほろの歴史、十勝ゆかりの人々、地図でたどるうらほろ

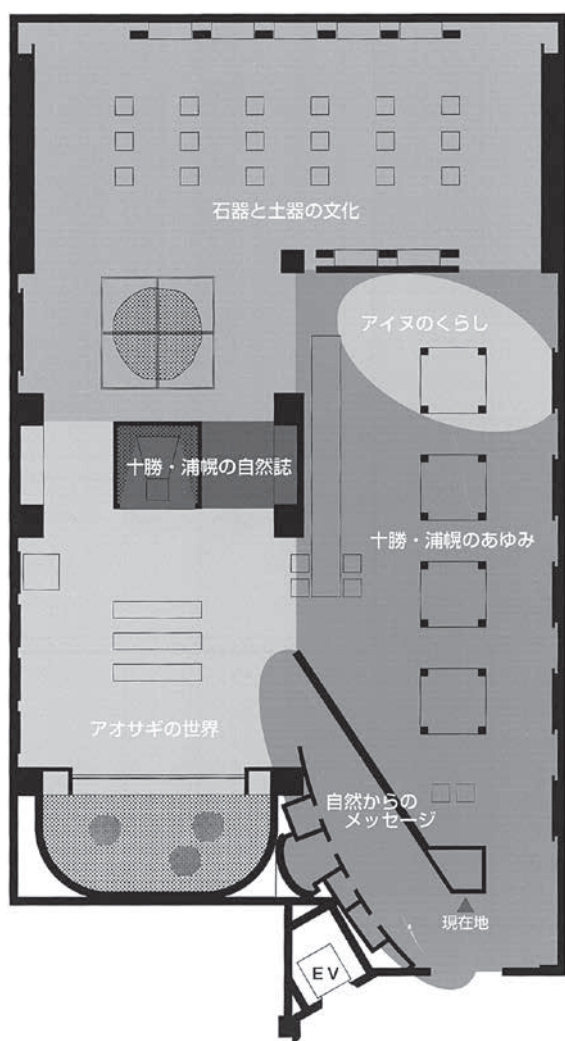


Fig.1 常設展示ゾーニング図



Fig.2 ヒグマ シンボル図

Discoveries of anomalously high Ir concentraions K-T boundary sediments



Geologic age in the region of the lower course of the Tokachi River



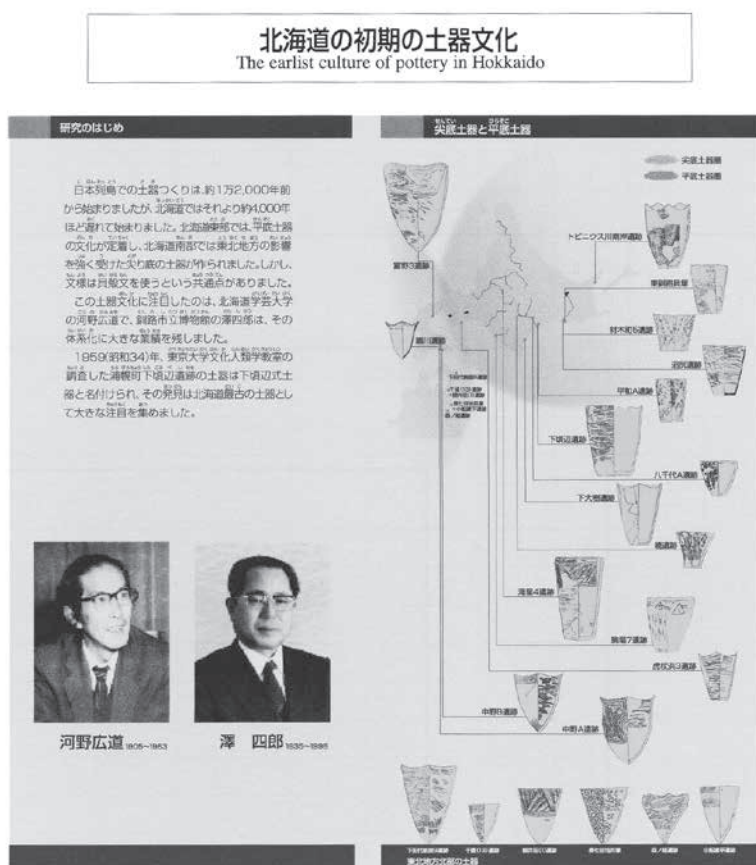


Fig.5 北海道の初期の土器文化

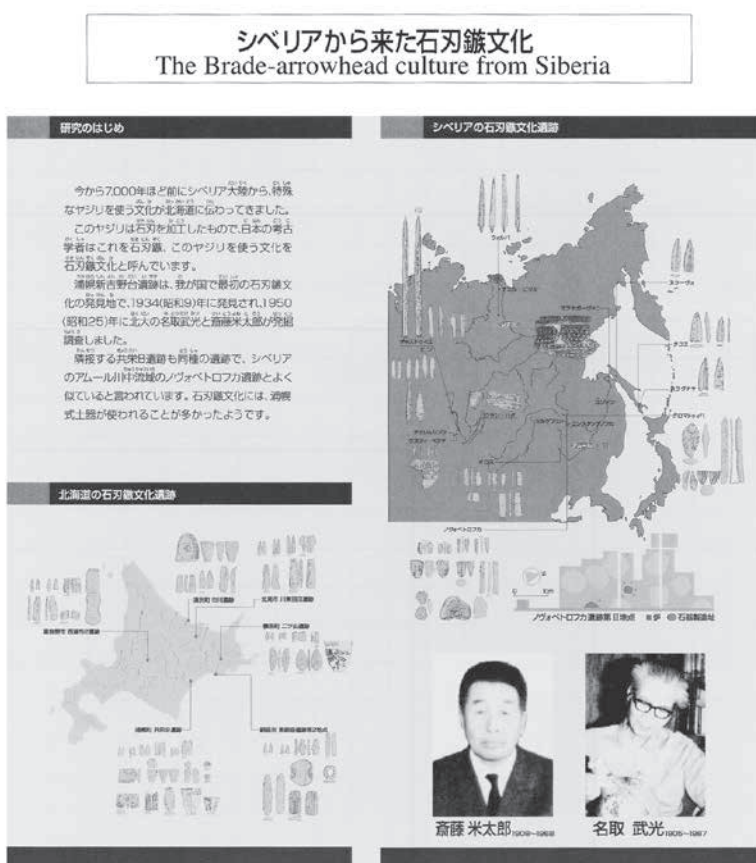


Fig.6 シベリアから来た石刃鎌文化

II. 常設展示構成

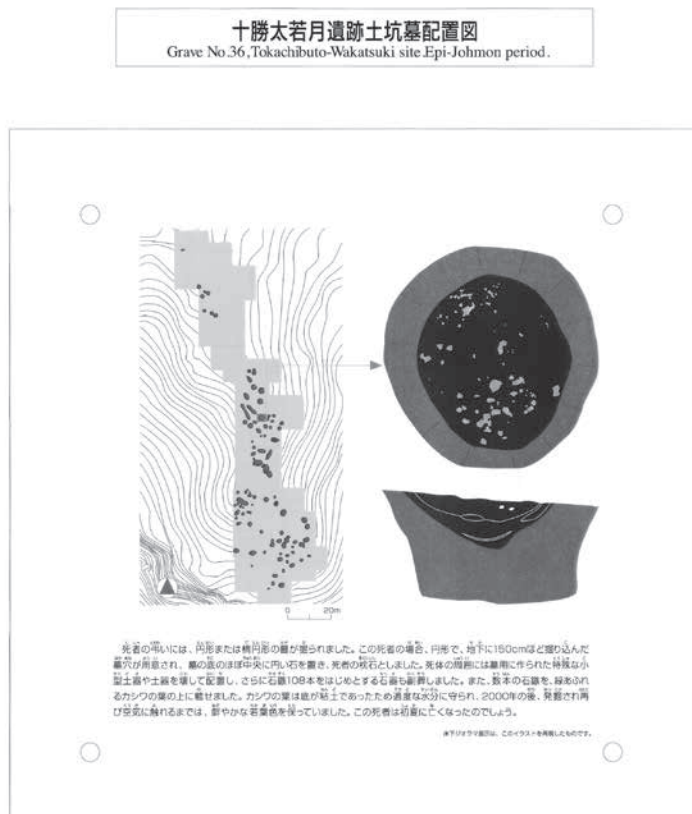


Fig.7 十勝太若月遺跡土坑墓配置図



Fig.8 続縄文文化と墓



Fig.9 擦文ムラと住居



Fig.10 擦文文化の鉄と農耕

II. 常設展示構成

いろいろな土器
Potteries

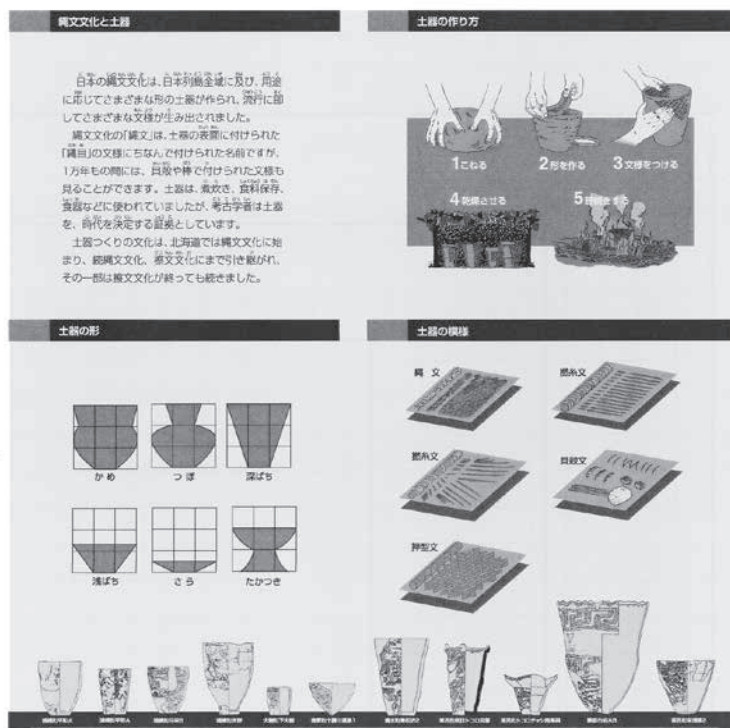


Fig.11 いろいろな土器

いろいろな石器
Stone tools

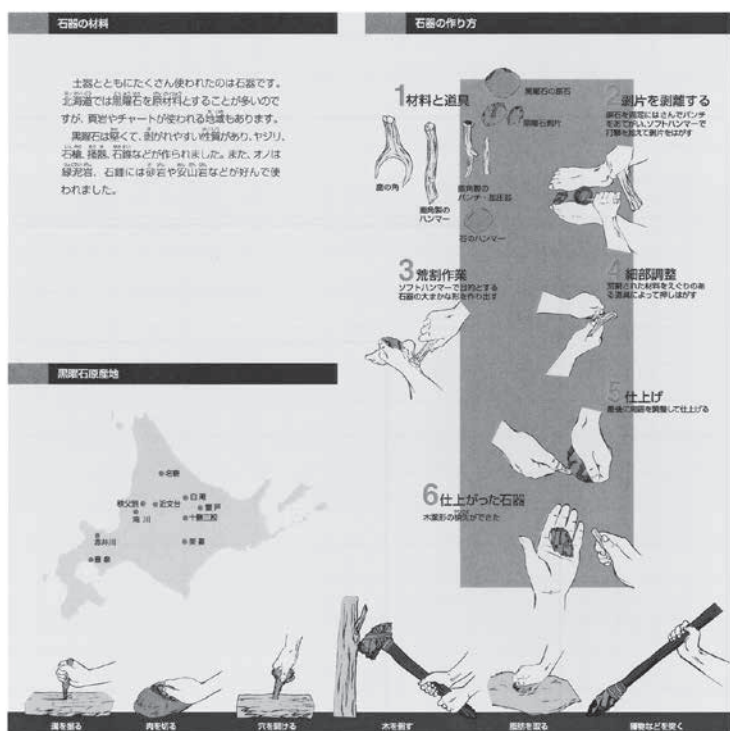


Fig.12 いろいろな石器

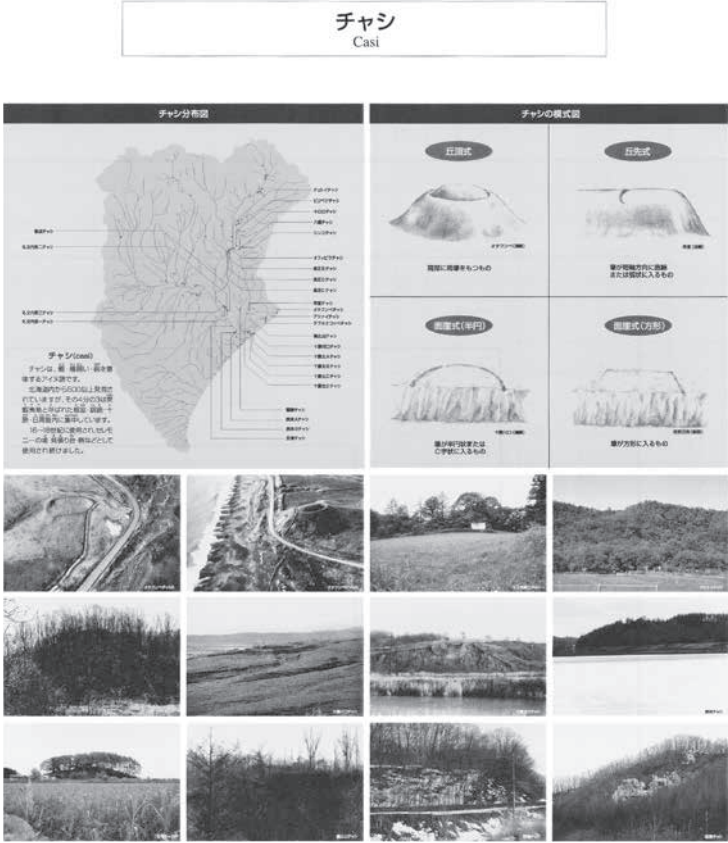


Fig.13 チャシ

送り場
funerary site and that surroundings

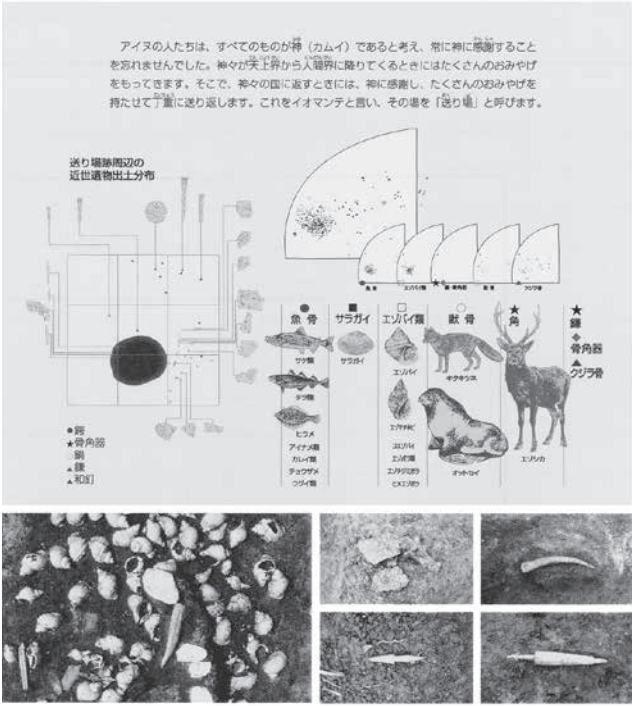


Fig.14 送り場

II. 常設展示構成

トカチの成立とトカチ場所



Fig.15 トカチの成立とトカチ場所

オヘチコカシ村の成立と初期の開墾

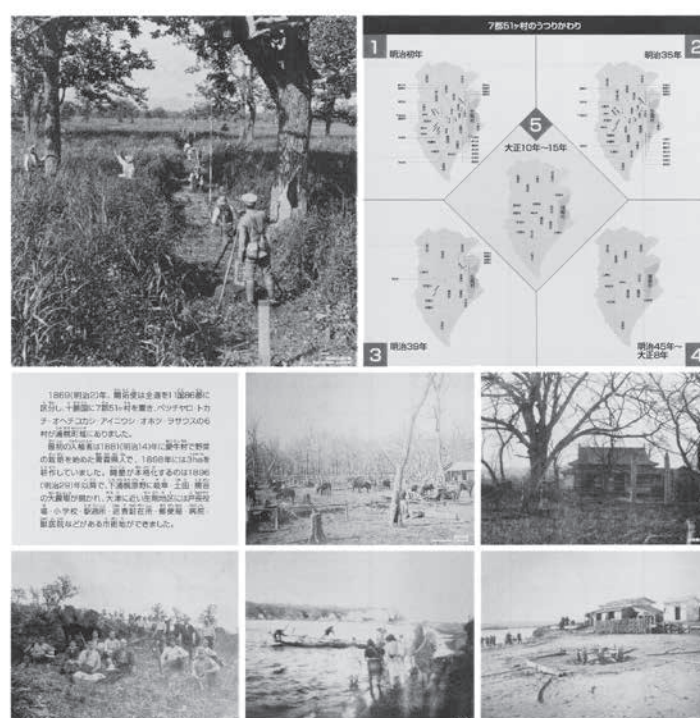


Fig.16 オヘチコカシ村の成立と初期の開墾

Ⅲ. 資料の受け入れ

(1) 受贈資料

月 日	氏 名	住 所	品 名	数量
4・5	前 出 彰 子	万 年	雑誌18、浦幌町市街地図 1	19
4・12	千歳市埋蔵文化財センター	千 歳 市	千歳市遺跡地図	1
4・20	浦幌町教育委員会	桜 町	幼稚園、小学校しおり	8
4・27	山 田 悟	帯 広 市	アイヌ語地名地図	32
5・10	石 橋 明 子	住 吉 町	音盤	72
5・17	郡 新 一	本 町	新聞55、音盤42、町勢要覧 1	98
6・21	山 田 悟	帯 広 市	アイヌ語地名地図	8
7・19	北 村 敦 子	帯 富	音盤11、岡持 2、角火鉢 1	14
7・25	匿 名		教科書	5
8・29	山 田 悟	帯 広 市	C D「北海道アイヌ語地名のいわれ」	1
9・4	佐 藤 芳 雄	住 吉 町	文集	1
11・21	背 古 宗 敬	東 山 町	衣装箱	2
11・24	宮 崎 一 市	共 栄	音盤	9
11・30	まちづくり政策課	桜 町	十勝あるき之図景（浦幌町編）	1
3・15	佐 藤 喜 和	神 奈 川 県	卒業論文・修士論文	7

Ⅲ. 資料の受け入れ

(2) 採集資料

月 日	資 料 名	数量	摘 要
5・21	タウンページ1、ハローページ1	2	東日本電信電話株式会社
9・21	うらほろ留真温泉無料バス運行表	1	浦幌町役場産業課
9・21	チラシ	1	平成24年度浦幌町教育の日 ブックフェスティバル
9・21	チラシ	1	移住体験者との交流会のご案内
9・21	チラシ	1	議会基本条例講演会
9・21	チラシ	1	浦幌町がメルマガ、始めました。
9・21	チラシ	1	平成24年度浦幌町教育の日実践交流会
9・21	チラシ	1	うらほろTPPセミナー
9・21	チラシ	1	うらほろフォーラム2013 うらほろスタイル
9・21	チラシ	1	ほっかいどう発掘ものがたりVol.2
11・30	十勝あるき之図景	1	帯広信用金庫経営企画部
12・14	チラシ	1	「子供も大人も管弦楽ワークショップ～ストラディヴァリウスがやって来た～」
12・14	チラシ	1	博物館はなぜ標本を集めるのか？
1・7	カレンダー（商工会）2013	1	博物館
1・7	カレンダー	1	北海道炭鉱遺産ファンクラブ
1・23	チョウ	52	エゾスジグロシロチョウなど15種
1・25	議会基本条例を制定 25年4月 から施行	1	浦幌町議会
3・26	広報 Urahoro No.720～731	12	浦幌町まちづくり政策課広報広聴係
3・26	うらほろ議会だより	4	浦幌町議会広報編集特別委員会

(3) 受贈図書資料

【北 海 道】

(財)アイヌ文化振興・研究推進機構

平成24年度アイヌ語ラジオ講座テキスト
Vol. 2～4

第16回アイヌ語弁論大会報告書
イタカンロー

アイヌ関連総合研究等助成事業研究報告
第12号

平成25年度版 (財)アイヌ文化振興・
研究推進機構助成事業案内
アイヌプリーアイヌの心をつなぐーDVD付
収蔵目録 6～7

(財)アイヌ文化振興・研究推進機構・

松浦武四郎記念館・北海道立近代美術館

AINU ARTー風のかたりベー

北海道立アイヌ民族文化研究センター

北海道立アイヌ民族文化研究センター
年報 2011

研究紀要 第18号
アイヌ語地名を歩く
ー山田秀三の地名研究からー2012斜里／知床
アイヌ民族文化研究センターだより No.36～37

旭川市博物科学館

旭川市博物科学館研究報告 第4号

厚岸町海事記念館

厚岸町海事記念館だより No.35～38

北海道立旭川美術館

氷華 No.54

いしかり砂丘の風資料館

いしかり砂丘の風資料館紀要 第2巻
エスチュアリ No.46

恵庭市郷土資料館

恵庭市郷土資料館 年報17
ユカンボシE11遺跡IV
ユカンボシE2遺跡Ⅲ・ユカンボシE11遺跡Ⅲ

江別市教育委員会

史跡が語る江別

えりも町郷土資料館

えりも町郷土資料館ほろいずみ

えりも町漁業振興センター水産の館
平成23年度(2011)活動報告書
えりも研究 第9号

小樽市総合博物館

小樽市総合博物館紀要 第26号

君伊彦氏文書調査団事務局

雪解け 第3号

釧路市埋蔵文化財調査センター

阿寒町地区埋蔵文化財分布調査報告書
釧路市内高等学校郷土史研究部資料調査報告書

釧路市立博物館

釧路市立博物館 紀要 第34輯
ヤマの話を聞く会 記録集2
石炭の開発と利用のしおり
釧路市立博物館報 No.407～411

阿寒湖のマリモ保全対策協議会

マリモ保護管理計画

倶知安町教育委員会

野草の四季ー改訂版ー

札幌市教育委員会

平成23年度 調査報告書

札幌市豊平川さけ博物館

札幌市豊平川さけ博物館 研究報告(2011)

札幌大学文化学部学芸員課程

札幌大学学芸員課程 年報 第9～10集
紋別市 オムサロC遺跡

沙流川歴史館

沙流川歴史館年報 第13号
沙流川歴史館だより No.44～47
二風谷遺跡群出土のアイヌ資料

標津町教育委員会

史跡標津遺跡群
伊奈仁 カリカリウス遺跡(平成22年度)
史跡標津遺跡群
伊奈仁 カリカリウス遺跡(平成23年度)
史跡標津遺跡群
天然記念物 標津湿原 保存整備事業報告書

標茶町郷土館

標茶町郷土館報告 第24号

伊達市噴火湾文化研究所

北黄金 2 遺跡 発掘調査概報Ⅱ

噴火湾文化 Vol. 6

特定非営利非人 タンチョウ保護研究グループ

湿地の神 タンチョウ

湿地の神Ⅱ タンチョウ

戸部千春

マキリ間切りイクスパイ

ーマキリ研究会通信ー 2012

苫小牧市博物館

苫小牧市博物館報 第9号

苫小牧市博物館だより №61

中川町エコミュージアムセンター

オフィチャシ跡

中川悌二郎記念旭川市彫刻美術館

第37回 中川悌二郎賞 図録

平成22（2010）年度

中川悌二郎記念旭川市彫刻美術館 年報

中標津町教育委員会

中標津町郷土館だより 第24号

根室市歴史と自然の資料館

根室市歴史と自然の資料館紀要 第24号

くるまいし №27

市立函館博物館

市立函館博物館研究紀要 第23号

SARANIP №52

函館市教育委員会・

特定非営利活動法人 函館市埋蔵文化事業団

函館市 亀田中野 1 遺跡(2)

函館市 亀田中野 2 遺跡

美幌町郷土史研究会・美幌博物館

不思議なトンボの世界

美幌博物館

美幌博物館報 2010

美幌博物館研究報告 第19号

2011年度 博物館自然講座

グリーンレター 第180～190号

平取町立二風谷アイヌ文化博物館

2010年度

平取町立二風谷アイヌ文化博物館年報

深川市教育委員会

深川市文化財調査報告書24 CD資料

別海町郷土資料館

別海町郷土資料館だより №153～158

別海町郷土資料館所蔵資料目録第1集

加賀家文書等資料目録Ⅰ

北翔大学北方圏学術情報センター

北翔大学北方圏学術情報センター年報 第4号

北斗市教育委員会 社会教育課

北斗市 茂辺地 4 遺跡

星の降る里百年記念館

平成24年度版 年報 Vol.19

北海学園大学

学園論集 第151～154号

北海道開拓記念館

北海道開拓記念館研究紀要 第40号

北海道開拓記念館だより 215～218号

北海道開拓記念館2011 要覧

北の土偶 縄文の祈りと心

（公財）北海道科学文化協会

北国に光を掲げた人々

北海道教育大学付属釧路中学校

平成24年度 研究紀要・開催要項

北海道大学総合博物館

北海道大学総合博物館 研究報告 第1号

北海道大学総合博物館ニュース 第24～26号

「サハリンにおける

オホーツク文化の形成と変容・消滅」

「都ぞ弥生」百年記念誌

北海道大学埋蔵文化財調査室

埋蔵文化財調査室ニュースレター

第12～14号

北大構内の遺跡Ⅸ

北海道博物館協会

道博協ニュース 第104～106号

平成24年度北海道博物館協会加盟館園等現況

CD資料

北海道深川市教育委員会

深川市文化財調査報告23 DVD資料

北海道文化財保護協会

北海道の文化 Vol.85

(財)北海道埋蔵文化財センター

(財)北海道埋蔵文化財センター 調査年報 25

(財)北海道埋蔵文化財センターだより 第26号

北海道立埋蔵文化財センター年報 13

北海道立文学館

北海道立文学館報 第91号

北海道立北方民族博物館

北海道立北方民族博物館研究紀要 第21号

北海道立北方民族博物館年報 平成23年度

北方民族博物館だより No.84～87

環境変化と生住民の生業文化

ー陸域生態系における適応ー

第27回特別展

東シベリア・サハ 永久凍土の大地に生きる

松前町教育委員会

史跡 松前氏城跡 福山城跡Ⅷ

ー平成23年度 発掘調査報告書ー

むかわ町立穂別博物館

むかわ町立穂別博物館館報 第28号

むかわ町立穂別博物館研究報告 No.27

森町教育委員会

鷲ノ木1遺跡 鳥崎遺跡Ⅱ

余市町教育委員会

登町4遺跡 (2012年度)

利尻町立博物館

利尻研究 第32号

大津・十勝川学会

大津十勝川研究 第10号

帯広大谷短期大学

帯広大谷短期大学紀要 第49号

帯広大谷短期大学生涯学習センター

紀要 第1号

帯広百年記念館

帯広百年記念館紀要 第30号

上士幌ひがし大雪博物館

上士幌ひがし大雪博物館研究報告 第34号

神田日勝記念館友の会

画室 Vol.40

神田日勝記念美術館

神田日勝記念美術館29

新得町郷土研究会

郷土 創立30周年記念 第6号

ふるさとの伝承

(有)東栄堂

十勝國産業写真帖

十勝文化団体協議会

十勝の文化

北海道中札内高等養護学校

北海道中札内高等養護学校

開校30周年記念誌

幕別町ふるさと館

幕別町ふるさと館 アイヌ民具資料目録

りくべつ宇宙地球科学館

りくべつ宇宙地球科学館 年報 第6号

天文台だより Vol.55 Vol.57～58

佐藤芳雄

コブタン No.35

平成24年度 浦幌町少年道外交流事業

派遣団員文集

浦幌ヒグマ調査会

浦幌クマ便り vol.13, No.2～vol.14, No.1

浦幌町立厚内小学校

平成23年度 アート体験教室

鮭の一生ドキュメント

浦幌町教育委員会

浦幌町子どもの読書活動推進計画

【青 森 県】

青森県立郷土館

青森県立郷土館報 平成24年度版

青森県立郷土館研究紀要 第36号

青森県教育庁文化財保護課

特別史跡 三内丸山遺跡年報 15～16

三内丸山遺跡 38～40

青森県教育委員会

伊吹遺跡

鯨森(1)遺跡

福島城跡

三内丸山通信 第54～55号

【岩 手 県】

一関市博物館

一関市博物館研究報告 第15号

ことばの海

合併記念展 藤沢の文化財

岩手県立博物館

平成23年度 岩手県立博物館年報

岩手県立博物館研究報告 第29号

岩手県立博物館だより No.133～136

北上市立博物館

北上市立博物館だより No.33

宮沢賢治記念館

平成23年度 宮沢賢治記念館年報

宮沢賢治記念館通信 第108号

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館年報 1・3

東北福祉大学芹沢銈介美術工芸館年報 1 抜刷

小札考一 ユーラシアから見た小札鎧の系譜

【宮 城 県】

仙台市教育委員会

地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報2012

発掘富沢！！－30年のあゆみ－

仙台市富沢遺跡保存館

地底の森ミュージアム・縄文の森広場年報2011

仙台市藩白老元陣屋資料館

仙台市藩白老元陣屋資料館報 第17号

【山 形 県】

山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

2011 年報

中世やまがたの城館

うきたむ 第38～39号

【新 潟 県】

新潟県立歴史博物館

新潟県立歴史博物館研究紀要 第12～13号

平成24年度 かぶりものと女のモノ語り

新潟県立歴史博物館収蔵資料目録

中野豈任コレクション目録Ⅰ 板碑等拓本

【福 島 県】

大竹憲治

いわき地方史研究 第48号

大竹憲治先生著作目録補遺

【茨 城 県】

上高津貝塚ふるさと歴史の広場

上高津貝塚ふるさと歴史の広場年報 第17号

海と河と縄文人－霞ヶ浦の古環境と遺跡－

大洗町幕末と明治の博物館

大洗町幕末と明治の博物館報 第1号

（独）国立環境研究所

環境儀 No.45

【千 葉 県】

国立歴史民俗博物館

楽器は語る 紀州藩主徳川治宝と君子の楽

行列にみる近世－武士と異国と祭礼と－

都市を描く－京都と江戸－

千葉県立中央博物館

千葉県立中央博物館研究報告 人文科学

第12巻 第2号

野田市郷土博物館・市民会館

野田市郷土博物館・市民会館年報・紀要第4号

野田と災害

千葉大学文学部考古学研究室

礼文町 浜中2遺跡

中標津町 鱒川第3遺跡 当幌川遺跡

【埼 玉 県】

跡見学園女子大学 花蹊記念博物館

平成23年度跡見学園女子大学花蹊記念博物館

学芸員課程 紀要年報「にいくら」No.17

さいたま市立博物館

さいたま市立博物館研究紀要 第10集

春日部市教育委員会

古墳時代の祈り

【東 京 都】

青山学院大学史学科研究室

青山史学 第30号

板橋区立郷土資料館

明治・大正期の人類学・考古学者伝

出光美術館

出光美術館報 第158～161号

江戸東京博物館

江戸東京博物館NEWS vol.77～80

お茶の水女子大学博物館学研究室

博物館実習報告 第27～28号

國學院大學文学部考古学研究室

長野県安曇野市 穂高古墳群

2011年度発掘調査報告書

國學院大學学術資料館

國學院大學学術資料館 考古学資料館紀要

第29輯

国際基督教大学博物館 湯浅八郎記念館

泰山荘

展示解説 考古資料

国際基督教大学博物館・湯浅八郎記念館年報

No.15～27

国際女子大学国際文化研究所

国際女子大学国際文化研究所紀要 Vol.14

(株)新泉社編集部

縄文土器ガイドブック…縄文土器の世界…

駿台史学会

駿台史学 第144～147号

世田谷区立郷土資料館

飯田家文書

飯田家文書目録

幕末維新—近代世田谷の夜明け—

資料館だより No.56～57

総務省情報流通行政局情報流通振興課・

文部科学省生涯学習政策局社会教育課・

文化庁文化財部伝統文化課

知のデジタルアーカイブ

—社会の知識インフラの拡大に向けて—

豊島区立郷土資料館

生活と文化研究紀要 第21号

かたりべ 102～105

豊島区立雑司が旧宣教師館

豊島区立雑司が旧宣教師館だより 第49号

地方史研究協議会

地方史研究 第356号

東京家政学院生活文化博物館

東京家政学院生活文化博物館年報 第20～21号

写真展 あの頃、あの時II

東京大学総合研究博物館

東京大学総合研究博物館ニュース

Ouroboros 第44～45号

法政大学史学会

法政史学 第77～78号

法政大学国際日本学研究所

国際日本学 第9号

日本のアイデンティティ形成と反響—

HOSEI I. J. S. No.16

(株)文化環境研究所

文環研レポート No.32

Cultivat No.40

公益社団法人 日本ユネスコ協会連盟

世界遺産年報 2012 (No.17)

明治大学学芸員養成課程

MUSEUM STUDY

明治大学学芸員養成課程紀要 23号

MUSEOLOGIST

明治大学学芸員養成課程年報 27号

明治大学博物館

2010～2011年度 明治大学博物館年報

明治大学博物館研究報告 第17号

立正大学史学会

立正史學 第111～112号

【神奈川県】

(独) 海洋研究開発機構広報課

Blue Earth 118号

神奈川大学日本常民文化研究所

2012年度 神奈川大学日本常民文化研究所

民具マンスリー 第44巻 11～12号

民具マンスリー 第45巻 1～12号

川崎市市民ミュージアム

川崎市市民ミュージアム紀要 第24集

平塚市博物館

平塚市博物館年報 第34号

自然と文化 第34～35号

横浜市歴史博物館

横浜市歴史博物館資料目録 第20集

横浜市歴史博物館調査研究報告 Vol. 8

横浜市歴史博物館紀要 第16号

III. 資料の受け入れ

横浜市歴史博物館NEWS 32～33

大倉精神文化研究所内遺跡 出土資料報告書

東海道保土ヶ谷宿

東海道保土ヶ谷宿資料集

相模国鎌倉郡 鍛冶ヶ谷村と小岩井家

海にこぎ出せ！弥生人

火の神 生命の神

風景を伝える、持ち帰る

【長野県】

飯田市美術博物館

飯田市美術博物館研究紀要 第22号

飯田市美術博物館・

飯田市上郷考古博物館年報 第21号

伊那谷自然史論集 vol.13

民俗の宝庫〈三遠南信〉の発見と発信

【富山県】

富山市教育委員会 富山市民族民芸村考古資料館

日本海文化研究

日本海を行き交う人・モノ・文化II

氷見市立博物館

氷見市立博物館年報 第30号

向島文庫（雑項工）目録

農耕具のすがた

特別展 懐かしの学び舎 むかしの教科書

和船建造技術を後世に伝える会

とやま和船

【石川県】

珠洲焼市教育委員会

珠洲焼誕生！

【愛知県】

南山大学人類学博物館

南山大学人類学博物館紀要 第30号

【三重県】

皇學館佐川記念神道博物館

皇學館佐川記念神道博物館館報 第23号

特別展 神社名宝展－参り・祈り・奉る－

【滋賀県】

滋賀県立琵琶湖博物館

琵琶湖博物館研究調査報告 第27号

【京都府】

同志社大学歴史資料館

同志社大学歴史資料館報 第15号

(財)古代学協会

(財)古代学協会平成23年度年報 初音2

【奈良県】

(公財)奈良人権文化財団 水平社博物館

(公財)水平社博物館研究紀要 第15号

LUCIFER 第15号

天理大学附属天理参考館

天理参考館報 第25号

台湾平埔族 生活文化の記憶

(独)奈良文化財研究所

奈良文化財研究所紀要 2012

奈良文化財研究所概要 2012

伝統文化のモノと心 第1～3号

埋蔵文化財ニュース 146～149

奈良大学文学部文化財学科

文化財学報 第30集

【大阪府】

大阪市立自然史博物館

大阪市自然史博物館報 37

大阪大谷大学博物館

バ・コン窯跡群6A, B号窯跡

博物館だより No.111～112

大阪大谷大学文化財学科

大阪大谷大学文化財研究 第12号

志学台考古 第12号

大阪大谷大学博物館

乙金地区遺跡群

東南アジアの伝統的土器づくり

関西大学博物館

関西大学博物館紀要 第18号

東洋のやきもの－日本・朝鮮・中国－

南部靖之氏寄贈 古硯と古黒

阡陵 No.64～65

【兵庫県】

姫路市立城郭研究室

姫路市立城郭研究室年報 第22号

(財)竹中大工道具館

竹中大工道具館だより No.27～28

【岡山県】

倉敷考古館

倉敷考古館研究集報 第21号

【広島県】

(株)熊平製作所

抜萃のつゞり その七十二

【島根県】

島根県古代文化センター

しまねの古代文化 第3号

【山口県】

下関市立考古博物館

下関市立考古博物館研究紀要 第16号

下関市立考古博物館年報 第17号

ヤマト王権と地方豪族

【愛媛県】

愛媛県歴史文化博物館

研究紀要 第17号

歴博だより No.70～72

愛媛県出土木製品（古代・中世）

【福岡県】

福岡市経済観光文化局埋蔵文化財センター

福岡市埋蔵文化財センター年報 第30～31号

IV. 資料の提供

貸 出 先	浦幌町立浦幌小学校
資 料 名	写真パネル
目 的	教材用
期 間	平成24年4月24日～平成24年5月1日

貸 出 先	帯広百年記念館
資 料 名	ヒスイ製垂飾、有孔石斧、後北式土器、刀子、鉄滓、炭化物（オオムギ、キビ、シソ）、擦文土器（杯、深鉢、甕）、トビニタイ土器
目 的	帯広百年記念館開館30年記念特別企画展「発掘された十勝-十勝平野の人類史 3万年」に展示
期 間	平成24年7月20日～平成24年10月5日

貸 出 先	北海道教育大学釧路校
資 料 名	浦幌町郷土博物館報告 29枚
目 的	研究資料
期 間	平成24年8月29日

貸 出 先	北海道教育大学釧路校
資 料 名	浦幌町内の石碑の研究 58枚
目 的	研究資料
期 間	平成24年8月31日

貸 出 先	北海道大学大学文書館
資 料 名	北海道庁「十勝国殖民地区画図」、内務省地理調査所「浦幌」、国土地理院「浦幌」2枚
目 的	研究資料（愛牛防風林場所調査）
期 間	平成24年10月26日

貸 出 先	(株)新泉社
資 料 名	共栄B遺跡出土の条痕文系平底土器 1枚
目 的	縄文土器ガイドブック 掲載
期 間	平成24年11月19日

V. 博物館の事業

平成24年度 浦幌町立博物館運営方針

浦幌町教育の日・学校支援を地域全体で具現化するために生涯学習推進の観点から浦幌町立博物館は次のような活動を展開します。

- 本町全体を総合的ミュージアムと位置付け、内外の研究者や町民を巻き込みながら新たな発見を求めて調査・研究活動や博物館講座を開催します。また、貴重な収蔵資料をもとに定期的に小企画展を開催します。(化石・昆虫・植物研究)
- 町民の貴重な財産である歴史遺産、恵まれた自然等を教育的資源として活用するため、文化財・地質・草花・野鳥探索等各種の博物館ミニ移動講座を実施します。(考古学・産業遺産・戦争遺産・第四紀・第三紀・白亜紀・ヒグマ・四季の植物等)
- 学校との連携を強化し、展示資料等や町内の教育的資源をもとに総合学習や理科・社会・歴史などの教科指導に深く関わり博物館の教育機能を最大限に活用・発揮します。学校での支援ボランティア派遣にも応えていきます。
(総合学習・理科・社会・歴史等)
- 管内外の博物館、研究機関・福祉団体や産業団体と連携し、浦幌の魅力を探り発信します。
(デスモスチルス展、各大学等の研究機関との合同研究、ロングトレイル・高齢者団体等との連携)
- 博物館を人々の生涯学習の場として魅力あるものに育て、それを支えていただくために、気軽に参加できる展示説明・古文書解説・アイヌ文化伝承等のボランティア活動の場を設けます。
- ジャンルや興味に関係なく博物館に気軽に集えるよう、各種企画展やロビーコンサート・ナイトミュージアム等を図書館・公民館と連携し開催します。
- アイヌ協会浦幌支部と連携し、アイヌの食やアイヌ工芸など、アイヌ文化の振興を図り、発表・鑑賞の機会の場を設定します。
自然とともに生きる知恵を、暮らしに活かしてきたアイヌ文化を伝承し、広く町民に呼びかけアイヌ文化と触れ合う機会をつくります。
(アイヌ文様手芸・木彫・アイヌ文化展示会等)
- 情報共有化に向けて数万点にも及ぶ紙資料カードのデータ化を検討します。

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	場 所	期 日	備 考
収 集	旧資料の登録化	郷土博物館からの資料引継ぎ	博物館	通年	
	新資料の登録化	新資料・寄贈資料の整理登録化	博物館	通年	寄贈 278点 収集 40点
	図書資料の収集	図書資料の収集	博物館	通年	受贈 167点
	新聞資料の収集	新聞資料の整理	博物館	通年	カード化
保存	昆虫標本の作成・保存	チョウの採集・標本化	博物館	夏季	採集 52頭
展 示	巡回展 (帯広百年記念館共催)	帯広百年記念館運営連絡協議会移動展 「博物館はなぜ標本を集めるのか」	博物館	11/6～28	記帳者：81名
	小企画展	謎の生物デスマスチルス展	博物館	4/1～5/18	記帳者：312名
		浦幌の地層に刻印された巨大津波展	博物館	4/18～継続中	
		収蔵資料展「端午の節句展」	博物館	4/24～5/5	記念撮影：54名
		3. 11津波漂着物写真展	博物館	4/18～継続中	
		野生動物写真展 十勝沖「海の動物たち」	博物館	6/2～13	記帳者：87名 漂着アザラシ会共催
		収蔵資料展 「懐かしき昭和の生活回顧展」	博物館	7/3～31	
		真夏の残像・・・あの夏の熱き想い ・・・戦争体験を伝える	博物館	8/2～19	記帳者：120名
		和歌山 満・・・自然の美 「天の星・地の花・海の貝」展	博物館	8/23～9/30	記帳者：190名
		収蔵資料展「みのり」 農機具の歴史展	博物館	9/4～10/3	記帳者：142名
		アンモナイト発掘写真展	博物館	11/1～継続中	常設展会場
		アイヌ文化伝承事業(アイヌ協会共催) 「アイヌ文様刺繍展示会」	博物館	12/2～30	記帳者：200名
		2013年 全国孔版画賀状展	博物館	1/26～2/5	記帳者：85名
		収蔵資料展「ひな人形展」	博物館	2/15～3/3	記帳者：119名 写真撮影：50名
		昭和27年 浦幌を襲った十勝沖大震災回顧展	博物館	3/4～28	記帳者：146名
調 査	古文書解読	十勝郡生剛村役場公文書	博物館	通年	博物館ボランティア
	浦幌町植物・野生動物・化石調査	上越教育大学連携調査	川流布他	8/3・4	シンカイヒバリガイ・アンモナイト
		三笠市立博物館・足寄動物化石博物館との共同研究		8/3～	アンモナイト共同研究
教 育 普 及	博物館講座の開設	収蔵資料レコードコンサート	博物館	4/21	
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	5/12	
		「早起きして 部分日食を見よう」講座	博物館	5/21	講師 和歌山満 参加者 7名
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	6/2	
		「金星食観察」講座	博物館	6/6	講師 和歌山満 参加者 30名
		昆虫採集講座	森公園他	7/15・8/2	講師 円子紳一 参加者 延べ18名
		子ども考古学教室	博物館	7/21	北海道埋蔵文化財センター 参加者 21名

分類	事業名	事業内容	場 所	期 日	備 考
教 育 普 及	博物館講座等の開設	収蔵資料レコードコンサート	博物館	7/21	
		うらほろスタイルゼミナール ウラホロシンカイヒバリガイ産出 の意義談話会	博物館	8/4	講師 上越教育大学 天野教授 参加者 15名
		三世代交流博物館講座	博物館	8/5	講師 佐藤館長 参加者 60名
		子孫に伝えよう戦争体験 ・ ・ 語りべの会	博物館	8/9	講師 村田一司 参加者 12名
		真夏のナイトミュージアム	博物館	8/11	講師 佐藤館長 参加者 7名
		子どもヒグマの学校	博物館	8/19	講師 伊藤・小泉 参加者 18名
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	8/25	
		うらほろスタイルゼミナール 「十勝で発見されたアンモナイト」	博物館	9/12	講師 栗原賢一 参加者 48名
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	9/22	
		開拓時代の食べ物試食会	博物館	10/14	参加者 50名
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	10/21	
		初心者アイヌ文化伝承教室 (アイヌ文様)	博物館	11/5・6、 12・13	講師 山本みい子 参加者 6名
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	11/24	
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	12/1	
		初心者アイヌ伝統料理教室	博物館	12/15	講師 山本みい子 参加者 12名
		クリスマス歌声サロン	博物館	12/22	参加者 20名
		真冬のナイトミュージアム	博物館	12/22	講師 佐藤館長 参加者 18名
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	1/6	
		子ども博物館講座 「アカゲラBOX」	博物館	1/8	伊藤咲子・小林真樹 参加者 44名
		子ども冬休み体験講座 「化石のレプリカづくり教室」	博物館	1/11	講師 澤村 寛 参加者 46名
		植物標本づくり教室	博物館	1/14	講師 持田 誠
		歌声サロン	博物館	2/9	参加者 15名
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	2/16	参加者 13名
		うらほろスタイルゼミナール 「十勝・浦幌のアイヌ語地名」	中央公民館	2/18	講師 山田 治 参加者 16名
		うらほろスタイルゼミナール 「浦幌の海成堆積物から知る 過去の大津波」	博物館	3/4	講師 境 智洋 参加者 26名
		うらほろスタイルゼミナール 「十勝に人が住み始めた頃」	博物館	3/6	講師 北沢 実 参加者 14名
		うらほろスタイルゼミナール 「サーミの人々と交流を語る」	中央公民館	3/9	講師 桃井里奈 参加者 14名
		収蔵資料レコードコンサート	博物館	3/16	

分類	事業名	事業内容	場 所	期 日	備 考
教 育 普 及	共済支援事業	上級アイヌ文化伝承教室 (アイヌ文様刺繍)	博物館	7/3・4・17・ 18、8/7・8・ 21・22、9/4・ 5・18・19	講師：加藤シヅエ 開催回数：12回 延べ100名参加
	移動博物館教室の開設	春の渡り鳥観察会	豊 北	4/14	講師 春日基江 参加者 13名 24種
		春の草花観察会 「ウラホロイチゲ」	養老・ 万 年	4/28	講師 坂下禮子 参加者 14名 12種
		春の野鳥観察会「青い鳥」	森 林 公 園	5/12	講師 春日基江 参加者 11名 14種
		物理学的に見地から見たK-T境界層	川流布	5/15	講師 佐藤館長 参加者 6 名
		郷土史編「浦幌の文化財・史跡」	十勝太	6/2	講師 佐藤館長 参加者 4 名
		初夏の草花観察会「海岸編」	豊 北	6/17	講師 坂下禮子 参加者 11名 27種
		野鳥観察「夏鳥編」	豊 北	7/14	講師 春日基江 参加者 8 名 21種
		地質編「海底だった頃の浦幌」	厚 内	7/28	講師 和歌山満 参加者 11名
		地質編「恐竜絶滅の謎を探る」	川流布	8/11	講師 佐藤館長 参加者 8 名
		郷土史編「駅通のあった頃」	町 内	8/25	講師 佐藤館長 参加者 6 名
		郷土史編「浦幌の文化財・史跡」	稲穂・留真 ・旧炭鉱	9/1	講師 佐藤館長 参加者 2 名
		秋の草花観察会「海岸編」	豊 北	9/15	講師 坂下禮子 参加者 8 名 35種
		野生動物編 「ヒグマの生態を探る」	炭山奥	10/6	講師 小泉沙奈恵他 参加者 10名
		K－T境界層探索会	茂川流布	10/6	講師 佐藤館長 参加者 8 名
		郷土史編「浦幌の文化財・史跡」	上厚内・直別 ・十勝太	10/13	講師 佐藤館長 参加者 5 名
		晩秋の渡り鳥観察会	豊 北	11/3	講師 春日基江 参加者 8 名 4種
		移動自然（厳寒）体験学習 「厳寒期の野生動物」	豊 北	2/2	参加者 43名
	レファレンス業務		博物館	通年	
	「博物館年報」の発行	第13号・A4判・82P・500部	博物館	平成24年11月発行	
	「博物館紀要」の発行	第13号・A4判・67P・500部	博物館	平成25年3月発行	
	講義・指導等	NHKおはようもぎたてラジオ便 「わが街のミュージアム」出演	博物館	4/25	
		帯広市37東遊会 視察研修指導	博物館 ・旧炭鉱	5/23	参加者 30名

分類	事業名	事業内容	場 所	期 日	備 考
教 育 普 及	講義・指導等	ロングトレイル「森のルート」指導	KT境界層 ・旧炭鉱	5/26	参加者 29名 帯広ほか
		道教育大学教育学部釧路校生 町内巡検指導	町 内	6/9	参加者 30名 地域教育開発集中講座
		フットパス全道大会 指導	豊北～ 昆布刈石	6/10	参加者 70名 札幌/旭川/黒松内ほか
		帯広市三西支朋寿会 移動研修指導	博物館 ・旧炭鉱	6/25	参加者 30名
		町内教職員ふるさと移動研修 町内巡検指導	KT境界層 ・旧炭鉱	6/30	参加者 4名
		道民カレッジフレンズ十勝 「十勝の歴史を訪ねて」指導	博物館 ・豊北	7/4	参加者 70名 帯広市から
		上浦幌PTA連合会町内研修指導 (K-T境界層見学、化石採取体験)	KT境界層 ・旧炭鉱	7/7	参加者 25名
		帯広市山望実年会 研修指導	博物館 ・旧炭鉱	7/9	参加者 36名
		浦幌中学校3学年総合学習 「町内魅力発見バスツアー」指導	豊北・ 十勝太道跡・ 旧炭鉱	7/12	生徒 30名 引率 1名
		北栄小地区生涯学習推進委員会 移動研修指導	博物館 ・旧炭鉱	7/16	参加者 33名
		厚内子ども会博物館見学 「昼間のナイトミュージアム」指導	博物館	7/30	参加者 18名
		浦幌小学校5年生 理科学習指導 (化石発掘体験)	博物館 ・旧炭鉱	8/27	児童 37名 引率 1名
		とかちキムンカムイの森 移動研修指導	博物館 ・旧炭鉱	9/1	参加者 20名
		浦幌小学校6年生 理科学習指導 (化石発掘体験)	博物館 ・厚内	9/4	参加者 29名
		豊頃町豊寿大学 研修指導	博物館 ・旧炭鉱	9/7	参加者 19名
		帯広市啓新クラブ 移動研修指導	博物館	9/12	参加者 30名
		新得町郷土研究会 移動研修指導	博物館	9/13	参加者 12名
		幕別町白人小学校6年生 「大地のつくり」研修指導	博物館 ・旧炭鉱	9/19	児童 57名 引率 2名
		豊頃小学校6年生 理科学習指導 (地層見学と化石発掘体験)	博物館 ・旧炭鉱	9/24	児童 17名 引率 2名
		帯広浦幌会 移動研修指導	博物館 ・旧炭鉱	9/28	参加者 30名
		厚内小学校3・4年生 社会見学指導	博物館	10/2	児童 5名 引率 1名
		北海道移住体験者 浦幌巡検指導	町内全域	10/3	参加者 7名
		畜産大学ジオツアー指導	KT境界層 ・旧炭鉱	10/7	参加者 42名

V. 博物館の事業

分類	事業名	事業内容	場 所	期 日	備 考
教育普及	講義・指導等	豊頃町「豊寿大学写真科・文学科 共同学習会」指導	博物館 ・旧炭鉱	10/11	参加者 15名
		帯広市西小地区生涯学習推進委員会 バス学習・・・東十勝の歴史	博物館 ・旧炭鉱	10/14	参加者 33名
		東十勝ロングトレイル 「森のルート」指導	留 真 ・旧炭鉱	10/20	参加者 35名 帯広市ほか
		商工会地域振興調査事業 商工会職員事前指導	町 内 全 域	10/23	参加者 3名
		新ひだか町議会 文教厚生常任委員会	博 物 館 内	10/23	参加者 9名
		商工会地域振興調査事業 モニターツアー指導	町 内 全 域	10/27	参加者 11名
研修等	博物館協議会の開催	館長の諮問機関・年3回	教育文化 センター	5/24、8/24、 3/5	
	帯広百年記念館 運営連絡協議会総会	帯広百年記念館運営連のための 連絡協議会	帯広百年 記 念 館	6/5	佐藤館長出席
	道東3管内博物館 施設等連絡協議会総会		釧路市立 博 物 館	5/25	佐藤館長出席
	東 十 勝 ロ ン グ ト レ ー ル 協 議 会	浦幌・豊頃の自然や産業・歴史を生 かした新たな散策ルート開発	商工会	随 時	山のルート： 川流布・炭山・留真 海のルート： 豊北 十勝太 昆布刈石 地域を、「歩」をキーに 線で結び新たな観光開発 をする。
	浦幌町商工会地域振 興 調 査 事 業 委 員 会	浦幌町の着地型 観光ルート開発に伴う研究	商工会		浦幌の歴史的観光素材を 全国に発信し商工会が観 光コンシェルジュになっ てお客を呼び込み新たな 雇用を開発する。
研究者等受入	日本大学	ヒグマ研究	博物館	通年	佐藤善和他
	上越教育大学	貝化石研究	博物館	通年	天野教授
	個人研究者	貝化石研究	博物館	通年	井上清和
	三笠市立博物館	アンモナイト研究	博物館	通年	栗原賢一
	帯広百年記念館	植物研究	博物館	通年	持田 誠



PL.1 春の渡り鳥観察会
(H24.4.14)



PL.2 春の草花観察会
「ウラボロイチゲ」
(H24.4.28)



PL.3 端午の節句展
(H24.4.24～5.5)

V. 博物館の事業



PL.4 ミニ移動講座「浦幌の
史跡」(H24.6.2)

PL.5 金星食観察会
(H24.6.6)



PL.6 動物写真展
「十勝沖の動物たち」
(H24.6.2～6.13)



PL.7 博物館出前講座
「上浦幌PTA移動研修」
K-T境界層見学等
(H24.7.7)



PL.8 博物館講座
「昆虫採集会」
(H24.7.15)



PL.9 子ども考古学講座
(H24.7.21)

V. 博物館の事業



PL.10 上浦幌中央小学校
「総合学習」
(H24.7.24)

PL.11 ミニ移動講座
「海底だった頃の浦幌」
(H24.7.28)



PL.12 三世代交流博物館講座
(H24.8.5)



PL.13 子どもヒグマの学校
(H24.8.19)

PL.14 小企画展
「和歌山・美しい自然
美展」
(H24.8.23～9.30)



PL.15 初心者アイヌ刺繍教室
(H24.11.23)



PL.16 アカゲラBOX
(H25.1.8)

PL.17 冬休み体験講座
「化石のレプリカづくり」
(H25.1.11)



PL.18 植物標本づくり教室
(H25.1.14)



PL.19 全国孔版画展
(H25.1.26～2.5)

PL.20 浦幌小学校3年
「昔の道具」
(H25.2.5)



PL.21 ロビーコンサート
「歌声サロン」
(H25.2.9)

V. 博物館の事業



PL.22 雛人形展
(H25.2.15~3.3)

PL.23 うらほろスタイルゼミ
ナール「浦幌の海成堆
積物から探る大津波」
(H25.3.4)



PL.24 うらほろスタイルゼミ
ナール「サーミの文化
を語る」(H25.3.9)

VI. レファレンス業務

2012年度において、照会などのあった内容は概ね次のようなものである。

- 浦幌町郷土博物館報告内の席碑関係について
- 共栄B遺跡：条痕文系平底土器について
- 愛牛防風林について
- オタフンベチャシ跡について
- 吉田康登氏採取植物標本について
- 異常巻きアンモナイトについて
- シマフクロウ・タンチョウについて
- 十勝あるき之図景について
- 十勝太遺跡について
- 十勝オコッペ遺跡について
- 新吉野台遺跡について
- 下頃辺遺跡について
- 豊北原生花園について
- 黄金の滝について
- 町内のトーチカについて
- 祭礼・行事について
- チョウザメ・イトウ剥製について
- 化石資料について
- 浦幌炭砦について
- ウラホロイチゲについて
- 駅通について
- K-T境界層について

VII. 博物館ボランティア

博物館活動の一環として、博物館ボランティアによる活動がある。博物館ボランティアの業務は、①資料整理等の補助業務 ②新聞資料等の整理 ③博物館図書の登録と整理 ④簡易な展示解説 ⑤調査研究活動の補助 ⑥その他館長が適当と認めた業務等が想定されるが、本館では①～③業務を主に行い、他に古文書解説も行われている。現在の登録者は8名であるが、日常的に活動している者は5名である。

なお、古文書解説の成果は、「浦幌町立博物館紀要」第13号に掲載した。

●博物館ボランティア活動日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実 人 数	2	2	2	1	1	1	0	3	1	2	1	2	18
延 人 数	15	12	12	14	5	1	0	11	4	13	14	13	114

●博物館ボランティア登録者

北 町	春日 基江	住吉町	三浦 直春	栄 町	橋本 友子	宝 町	佐藤 明美
十勝太	市川 藤子	万 年	坂下 禮子	南 町	荒川 和子	北 栄	円子 紳一

VIII. 博物館日誌（抄）

平成24年

- 4月2日(月) 町辞令交付式。
定例管理職会議。
教育委員会辞令交付式。
- 4月5日(木) 村瀬政昭さん、松田さん来館。
- 4月6日(金) 猟友会野口昌靖さん打合せのため来館。
- 4月11日(水) 北海道アイヌ協会アDOIさん、差間正樹さん来館。
柴田和恵さん、山本努さん来館。
- 4月12日(木) 猟友会、野口昌靖さん来館。浦幌町商工会須藤富康さん来館。
十勝総合振興局森林室大樹事務所種市寿彦さん来館。
- 4月14日(土) 博物館ミニ移動講座（野鳥編）「渡り鳥観察会」。
- 4月18日(水) 十勝総合振興局森林室大樹事務所種市寿彦さん来館。
- 4月20日(金) 定例校長会。
- 4月21日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 4月24日(火) 端午の節句展（～5月5日）。
定例教育委員会。
定例教頭会議。
- 4月25日(水) 佐藤館長、図書館振興協議会出席（札幌市）。
- 4月26日(木) 佐藤館長、北海道公民館協会総会出席（札幌市）。
- 4月27日(金) 谷崎由喜男さん来館。
- 4月28日(土) 博物館ミニ移動講座（草花編）「ウラボロイチゲ群落観察会」。
- 5月5日(土) 端午の節句展会期終了日、写真撮影会。
- 5月8日(火) 中尾町議会議員来館。
- 5月10日(木) 猟友会原さん、池田さん来館。
- 5月12日(土) 博物館ミニ移動講座（野鳥編）「春の野鳥観察会」。
収蔵資料レコードコンサート開催。
- 5月13日(日) デスモスチルス展会期終了日。
- 5月15日(火) うらほろ幼稚園、しらかば保育園の園児来館。
- 5月16日(水) 十勝毎日新聞社大笹健郎さん打合せのため来館。
- 5月17日(木) 郡新一さん寄贈のため来館。
山崎伸太郎さん博物館事業打合せのため来館。
- 5月18日(金) 佐藤館長、デスモスチルス全身骨格返却のため（足寄町）。
- 5月20日(日) 和歌山満氏、日食観察会のため来館。
- 5月21日(月) 博物館講座「日食観察会」講師：和歌山満氏。定例校長会議。井上清和さん（シンカイヒバリガイ化石発見者）来館。
- 5月22日(火) 定例教頭会議。
- 5月23日(水) 帯広三七東遊友会、団体見学。
- 5月24日(木) 図書館・博物館協議会。
- 5月25日(金) 3.11津波漂着物写真展（～6月17日）。
教育委員協議会。定例教育委員会。

- 5月26日(土) 「東十勝ロングトレイル“森のルート”留真温泉と山菜ツアー2012」。
地域生活支援事業所ブリング、東十勝ロングトレイル団体見学。
- 5月28日(月) 公民館運営審議会中央公民館部会。社会教育委員会。
- 5月29日(火) 浦幌町商工会須藤富康さん来館。
- 5月30日(水) 十勝自然史研究会藤山広武さん、平澤正勝さん来館。
日本大学ヒグマ研究グループ小泉沙奈恵さん来館。
- 6月1日(金) 日本大学ヒグマ研究グループ小泉沙奈恵さん、高橋元輝さん来館。
- 6月2日(土) 博物館ミニ移動講座（歴史編）「町内の史跡見学会パート1」。
収蔵資料レコードコンサート開催。
十勝沖・海の動物たち展（～13日）。
- 6月3日(日) 和歌山満氏、金星日面通過観測会のため来館。
- 6月4日(月) 井上清和さん（シンカイヒバリガイ化石発見者）来館。
- 6月5日(火) 佐藤館長、帯広百年記念館運営連絡協議会（幕別町）出席。
山田豊さん来館。
- 6月6日(水) 金星日面通過観測会、講師：和歌山満氏。
- 6月9日(土) 北海道教育大学釧路校教育学部巡検。
北海道教育大学釧路校団体見学。
- 6月10日(日) 北海道フットパスネットワーク全道大会。同団体見学。
- 6月12日(火) 北海道アイヌ協会浦幌支部長差間正樹氏、差間昭子さん、桃井里奈さん来館。
猟友会野口昌靖さん、鈴木さん来館。
- 6月13日(水) 帯広畜産大学鈴木瑞穂さん、山口英美さん来館。
漂着アザラシの会千嶋淳さん来館。
帯広百年記念館藤原久司さん来館。増子礼子さん来館。
帯広広和会、団体見学。十勝沖・海の動物たち展会期終了日。
- 6月16日(土) 平成24年度浦幌町教育の日ブックフェスティバル開催。
帯広百年記念館、団体見学。
- 6月17日(日) 博物館ミニ移動講座（植物編）「初夏の草花観察会」。
3.11津波漂着物写真展会期終了日。
- 6月18日(月) 猟友会野口昌靖さん来館。浦幌町商工会須藤富康さん来館。
親子連れ特別見学。
- 6月21日(木) 山田悟さん来館。
- 6月22日(金) 帯広百年記念館北沢館長、大和田努学芸員来館。
道民カレッジ・フレンズ十勝、金田英男さん来館。
- 6月25日(月) 帯広市三西朋寿会、団体見学。
- 6月26日(火) 定例校長会議。
池田町教育委員会教育課主幹君島利彦さん来館。
- 6月27日(水) 定例教頭会議。
- 6月28日(木) 教育委員協議会。教育委員会。久門まき子さん来館。
- 6月29日(金) 日本大学浦幌ヒグマ調査会小泉沙奈恵さん、広瀬諭実さん、石橋悠樹さん来館。
- 6月30日(土) 浦幌町教職員ふるさと移動研修会。
浦幌町教職員ふるさと移動研修会、団体見学。
- 7月2日(月) 日本大学浦幌ヒグマ調査会小泉沙奈恵さん、石橋悠樹さん来館。
食生活を考える会、本間鈴美さん来館。
- 7月3日(火) 博物館収蔵資料展「懐かしき昭和の生活回顧展－昭和30年代～60年代－」（～31日）

- 開催。上級アイヌ文化伝承教室。
- 7月4日(水) 上級アイヌ文化伝承教室。
十勝・浦幌の歴史を訪ねて（道民カレッジ連携講座）団体見学。
- 7月7日(土) 上浦幌PTA連合移動研修、団体見学。
- 7月9日(月) 帯広山望実年会視察、団体見学。
- 7月10日(火) 大樹寿大学、団体見学。
移住体験希望者案内。
- 7月11日(水) うらほろ幼稚園、団体見学。
荒川和子さん昆虫採集準備のため来館。
- 7月12日(木) 浦幌中学校3年生総合学習移動研修。
- 7月14日(土) 博物館ミニ移動講座（夏鳥編）「初夏の野鳥観察会」。
- 7月15日(日) 博物館講座（昆虫編）「親子昆虫採集教室」。
- 7月16日(月) 帯広市北栄小学校生涯学習視察、団体見学。
- 7月17日(火) 上級アイヌ文化伝承教室。
- 7月18日(水) 上級アイヌ文化伝承教室。
- 7月19日(木) 北海道新聞池田支局佐竹政治支局長来館。
北村敦子さん寄贈ため来館。
- 7月20日(金) 浦幌中心の教育相談員阿部公良さん来館。
十勝毎日新聞記者大笹健郎さん来館。
（財）北海道埋蔵文化財センター倉橋直孝さん来館。
- 7月21日(土) 博物館講座（歴史編）「子ども考古学教室」出前講座。
収蔵資料レコードコンサート開催。
- 7月23日(月) 定例校長会議。定例教頭会議。
加藤建設(株)代表取締役加藤茂樹さん来館。
猟友会野口昌靖さん来館。浦幌神社宮司背古宗敬さん来館。
- 7月24日(火) 上浦幌中央小学校3・4年生、団体見学。
井上清和さん（シンカイヒバリガイ化石発見者）来館。
- 7月25日(水) 帯広百年記念館北沢館長外1名展示資料を借りに来館。
- 7月26日(木) 教育委員協議会。教育委員会。
- 7月28日(土) 博物館ミニ移動講座（地学編）「新第三紀の浦幌を探る－化石採集－」。
- 7月30日(月) 厚内地区子供会、団体見学。
- 7月31日(火) 博物館収蔵資料展「懐かしき昭和の生活回顧展－昭和30年代～60年代－」会期終了日。
円子紳一さん来館。
日本大学浦幌ヒグマ調査会小泉沙奈恵さん、天羽隆之介さん来館。
- 8月1日(水) 日本大学浦幌ヒグマ調査会小泉沙奈恵さん、天羽隆之介さん、高橋元輝さん来館。円子紳一さん来館。
- 8月2日(木) 博物館講座（昆虫編）「昆虫採集教室」講師：円子紳一さん来館。
- 8月3日(金) 井上清和さん（シンカイヒバリガイ化石発見者）来館。
「“地球を食べる”生物の化石」講演会のため上越教育大学天野和孝教授、横浜国際大学ロバート・ジェンキンス研究員来館。
- 8月4日(土) 博物館企画展真夏の残像…「戦争体験を伝える」（～19日）開催。
「“地球を食べる”生物の化石」講演会。
- 8月5日(日) 三世代交流博物館講座「博物館探検」と「流しそうめん体験」開催。
- 8月6日(月) 上越教育大学天野和孝教授、横浜国際大学ロバート・ジェンキンス研究員来館。

- 8月7日(火) 上級アイヌ文化伝承教室。北海道アイヌ協会浦幌支部長差間正樹さん来館。
- 8月8日(水) 上級アイヌ文化伝承教室。
- 8月9日(木) 語り部「戦中・戦後の食」講師：戦争体験語り部の会村田一司さん来館。
三笠市立博物館栗原憲一主任研究員、加納学芸員来館。
- 8月10日(金) 和歌山満氏、「美し自然美展」打合せのため来館。
- 8月11日(土) 博物館ミニ移動講座（地学編）「K-T境界層探索」。
ナイト・ミュージアム。
- 8月13日(月) 佐藤館長、少年道外交流事業のため富山県へ（～16日）
- 8月16日(木) 佐藤館長、少年道外交流事業富山県より帰省。
- 8月17日(金) 十勝総合振興局森林室鈴木治さん、亀田孝史さん来館。円子紳一さん来館。
日本大学浦幌ヒグマ調査会小泉沙奈恵さん、伊藤哲治さん来館。
- 8月18日(土) 杉本年明さん（浦幌炭鉱の模型寄贈者）来館。
西田善藏さん来館。
- 8月19日(日) 子どもヒグマの学校開催。講師：日本大学の滝口ゆいかさん、武蔵友絵さん、鈴木晋悟さん、染谷慧人さん、石橋悠樹さん来館。
帯広柏葉高校朝日啓泰さん来館。
博物館企画展真夏の残像…「戦争体験を伝える」会期終了日。
- 8月20日(月) 定例校長会議。
- 8月21日(火) 上級アイヌ文化伝承教室。
- 8月22日(水) 上級アイヌ文化伝承教室。
定例教頭会議。
- 8月23日(木) 「美し自然美」和歌山満展一天（星）・地（花）・海（貝）－（～10月4日）開催。
- 8月24日(金) 荒川和子さん来館。
- 8月25日(土) 町内史跡「駅通跡」見学会。収蔵資料レコードコンサート開催。
- 8月27日(月) 浦幌小学校5年生「地学（川）の学習」、団体見学。
獺友会野口昌靖さん来館。浦幌孔版画サークル小山妙子さん外1名来館。
- 8月28日(火) 獺友会鈴木さん、山北さん来館。帯広信用金庫浦幌支店大島宗弘支店長来館。（株）内山企画会社代表取締役内山満博さん来館。文部科学省生涯学習政策局社会教育課地域・学校支援推進室連携支援係長田徹係長来館。
北海道大学岡本允志さん、下川祥市さん、久富裕太さん、漆原敏貴さん来館。名城大学池田善行さん来館。
- 8月29日(水) 円子紳一さん来館。
日本大学浦幌ヒグマ調査会小泉沙奈恵さん来館。
- 8月30日(木) 日本大学浦幌ヒグマ調査会小泉沙奈恵さん来館。
- 9月1日(土) 博物館ミニ移動講座（歴史編）「町内の史跡見学会」。
- 9月2日(日) とかちキムンカムイ、団体見学。
- 9月3日(月) 日本大学浦幌ヒグマ調査会小泉沙奈恵さん、広瀬諭実さん、平山花乃さん来館。獺友会野口昌靖さん外1名来館。
- 9月4日(火) 上級アイヌ文化伝承教室。移住体験のご夫妻（兵庫県）来館。
佐藤館長、浦幌小学校6年生理科学習指導。
- 9月5日(水) 上級アイヌ文化伝承教室。桐林義一（静岡県）さん来館。谷崎由喜男さん来館。
釧路市立博物館石川孝織学芸員来館。
- 9月7日(金) 豊頃町高齢者学級、団体見学。
- 9月8日(土) 博物館講座（昆虫編）「秋の昆虫採集教室」講師：円子紳一さん来館。

VIII. 博物館日誌（抄）

- 千代川謙一さん（千歳市）来館。十勝毎日新聞社大笹健郎さん来館。
- 9月10日(月) 十勝毎日新聞記者大笹健郎さん来館。広瀬さん外2名来館。
- 9月11日(火) 浦幌スタイル教育ゼミナール講師：三笠市立博物館栗原憲一主任研究員来館。
- 9月12日(水) 秋のミニ講演会「アンモナイト化石発見の意義」開催。講師：三笠市立博物館栗原憲一主任研究員。井上清和さん（シンカイヒバリガイ化石発見者）来館。
斉藤早穂里さん来館。荒川和子さん来館。帯広啓新クラブ団体見学。
- 9月13日(木) 新得町郷土研究会団体見学。
- 9月14日(金) 帯広百年記念館持田誠学芸員来館。
- 9月15日(土) 博物館ミニ移動講座（四季編）「秋の草花観察会」。
- 9月18日(火) 上級アイヌ文化伝承教室。和歌山満氏来館。
- 9月19日(水) 上級アイヌ文化伝承教室。十勝毎日新聞社大笹健郎さん来館。
幕別町立白人小学校6年生団体見学。佐藤館長、同団体「化石発掘体験」指導。
- 9月20日(木) 定例校長会議。
- 9月21日(金) 森啓之介さん来館。
- 9月22日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 9月24日(月) 定例教頭会議。
佐藤館長、豊頃小学校6年生浦幌町探索に同行。
- 9月26日(水) 教育委員協議会。定例教育委員会。
NPO法人コミュニティ・シンクタンクあうるず畑山昌平さん来館。
佐藤館長、浦幌町商工会「町内再発見モニターツアー」講師として同行。
- 9月27日(木) 田中敏彦さん（神奈川県）来館。荒川和子さん来館。
佐藤館長、ミュージアムマネージメント研修会のため足寄町へ出張。
- 9月28日(金) 帯広浦幌会団体見学。
- 10月1日(月) 小宮信義さん、小宮夫人、小宮太郎さん来館。獅子舞保存会坂下昇一さん来館。
佐藤館長、小宮さんと共栄B遺跡案内。
- 10月2日(火) 厚内小学校ナイトミュージアム「昔の道具」。
- 10月3日(水) さっぽろ暮らし体験者ツアー団体見学。佐藤館長、移住体験浦幌巡検。
- 10月4日(木) アンモナイト発掘写真展開催（～28日）。
「美し自然美」和歌山満展、会期終了日。
帯広稲田西長和会団体見学。
- 10月5日(金) 帯広百年記念館北沢館長ほか1名来館。
- 10月6日(土) 博物館ミニ移動講座（地学編）「K-T境界層探索」。
博物館ミニ移動講座（野生動物編）「ヒグマの生態調査」。
- 10月7日(日) 帯広畜産大学ジオツアー団体見学。
佐藤館長、同団体に学習指導のため同行。
- 10月8日(月) 第13回図書館まつり
- 10月10日(水) 小企画展「開拓当時の農具展」開催（～28日）。
佐藤館長、東十勝ロングトレイル協議会（浦幌町商工会）に出席。
- 10月11日(木) 上浦幌中央小学校、地域学習のため団体見学。
佐藤館長、豊頃町豊寿大学写真・文学科講義。同団体講義後見学。
- 10月13日(土) 博物館ミニ移動講座（歴史編）「町内の史跡見学会」。
帯広百年記念館団体見学。
- 10月14日(日) 体験会「開拓時代の食事試食会」開催。
佐藤館長、帯広市西小地区生涯学習移動研講義。同団体講義後見学。

- 10月15日(月) 浦幌中学校2年生2名、職業体験のため来館。
- 10月18日(木) 佐藤館長、中央寿大学修学旅行のため川湯・釧路（～19日）へ出張。
- 10月19日(金) 佐藤館長、中央寿大学修学旅行から帰省。
- 10月20日(土) 東十勝ロングトレイル「森のルート」開催。
佐藤館長、同団体講義。団体見学。
- 10月21日(日) 収蔵資料レコードコンサート開催。
帯広市児童会館本田館長、理科担当吉成さん来館。
佐藤館長、本田館長と吉成さんをK-T境界層へ案内。
- 10月22日(月) 定例校長会議。
定例教育委員会。
- 10月23日(火) 新ひだか町議会文教厚生常任委員会団体見学。内山企画来館。
佐藤館長、豊北～厚内方面の文化財等案内のため浦幌町商工会職員に同行。
- 10月24日(水) 定例教頭会議。
帯広百年記念館持田誠学芸員来館。山岸嘉平さん来館。円子紳一さん来館。
北海道大学農学院環境資源学専攻鳥居太良さん来館。
- 10月26日(金) 北海道大学逸見勝彦さん来館。北大文学館山本美穂子さん来館。
円子紳一さん、福原仁子さん、飛田辰章さん来館。
町民ワークショップ高室代表、ノースプロダクション関根さん来館。
- 10月27日(土) 佐藤館長、浦幌町商工会モニターツアーのため豊北～厚内同行指導。
浦幌町文化祭。
- 10月28日(日) 小企画展「開拓当時の農具展」会期終了日。
アンモナイト発掘写真展、会期終了日。
佐藤館長、博物館ボランティアの集いのため札幌市へ（～30日）出張。
- 11月2日(金) 帯広百年記念館持田誠学芸員移動展打合せのため来館
- 11月3日(土) 博物館ミニ移動講座（野鳥編）「渡り鳥見学会」。
- 11月4日(日) 教育の日実践交流会
- 11月5日(月) 初心者アイヌ文様刺繍教室。
帯広百年記念館持田誠学芸員移動展準備のため来館
- 11月6日(火) 初心者アイヌ文様刺繍教室。円子紳一さん来館。
帯広百年記念館移動展「博物館はなぜ標本を集めるのか？」開催（～28日）。
- 11月8日(木) 佐藤館長、三笠市へ出張。
- 11月9日(金) 佐藤館長、札幌市へ出張。
- 11月10日(土) ミニ百年記念館講座「浦幌町の植物相について」講師：持田誠学芸員。
NPO法人旧狩勝線を楽しむ会五十嵐信克さん来館。
- 11月11日(日) ミニ百年記念館講座「お話しとゲーム…エゾリスBOX」講師：伊藤彩子学芸員と小林真樹さん。
- 11月12日(月) 初心者アイヌ文様刺繍教室。
- 11月13日(火) 初心者アイヌ文様刺繍教室。北海道アイヌ協会浦幌支部差間正樹支部長。
猟友会野口昌靖さん来館。
- 11月14日(水) 浦幌ヒグマ研究会伊藤哲治さん来館。
- 11月15日(木) 坂下禮子さん来館。
- 11月19日(月) 井上清和さん（シンカイヒバリガイ化石発見者）来館。
- 11月21日(火) 定例校長会議。荒川和子さん来館。
- 11月22日(水) 広富一豊さん来館。ヨネザワデイリー米澤淑恵さん来館。

- 11月24日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
宮崎一市さん寄贈のため来館。
- 11月26日(月) 定例教頭会議。
- 11月27日(火) 北海道アイヌ協会浦幌支部桃井里奈さんアイヌ刺繍展準備のため来館。
- 11月28日(水) 北海道アイヌ協会浦幌支部差間正樹支部長、桃井里奈さんアイヌ刺繍展準備のため来館。円子紳一さん来館。
帯広百年記念館移動展「博物館はなぜ標本を集めるのか？」会期終了日。
- 11月29日(木) 定例教育委員会。
円子紳一さん来館。
- 11月30日(金) 北海道アイヌ協会浦幌支部差間正樹支部長、差間昭子さん、桃井里奈さん、長谷川さんアイヌ刺繍展準備のため来館。円子紳一さん来館。
- 12月1日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 12月2日(日) 博物館小企画展「アイヌ文様刺繍展示会」（～30日）開催。
- 12月4日(火) 全国体験活動ボランティア活動総合推進総合センター坂東佑司さん来館。
- 12月7日(金) 東栄堂営業部長高田雅行さんスキャナ不具合のため来館。
- 12月12日(水) 円子紳一さん来館。福原仁子さん来館。
- 12月15日(土) 初心者アイヌ文様刺繍教室。
- 12月18日(火) 定例校長会議。円子紳一さん来館。浦幌町商工会岩田彰さん来館。
猟友会野口昌靖さん来館。
- 12月20日(木) 帯広信用金庫浦幌支店長来館。
- 12月21日(金) 円子紳一さん来館。
- 12月22日(土) 歌声サロン（喫茶）、ナイトミュージアム開催。
- 12月26日(水) 猟友会鈴木さん来館。
- 12月28日(金) 役場、教育委員会仕事納め式。ソーゴー印刷(株)齊藤裕人さん来館。
- 12月30日(日) 博物館小企画展「アイヌ文様刺繍展示会」会期終了日。

平成25年

- 1月6日(日) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 1月7日(月) 役場、教育委員会仕事始め式。
- 1月8日(火) ミニ百年記念館講座「たのしいお話しとクイズ…アカゲラBOX」講師：伊藤彩子さん、小林真樹さん。齊藤辰也さん（帯広市）来館。円子紳一さん来館。
- 1月10日(木) 大同出版福松さんと藤井さん来館。
- 1月11日(金) アンモナイト化石レプリカづくり教室開催。北海道アイヌ協会浦幌支部差間正樹支部長来館。足寄町動物化石博物館澤村寛館長来館。
- 1月14日(月) 博物館講座「植物標本づくり教室」開催。講師：帯広百年記念館持田誠学芸員。
- 1月15日(火) 北海道アイヌ協会浦幌支部桃井里奈さん来館。
- 1月16日(水) 佐藤館長、東十勝ロングトレイル協議会（豊頃町）出席のため出張。
- 1月18日(金) 佐藤館長、小中一貫教育全国サミット出席のため京都府へ（～19）出張。
- 1月19日(土) 佐藤館長、京都府から帰省。
- 1月21日(月) 定例校長会議。
- 1月22日(火) 定例教頭会議。円子紳一さん、荒川和子さん来館。
- 1月23日(水) 教育委員協議会。定例教育委員会。円子紳一さん、荒川和子さん来館。
- 1月26日(土) 2013全国孔版画賀状展（～2月5日）開催。
- 1月31日(木) 円子紳一さん、(株)十勝マイクロ営業係長川畠則之さん来館。

- 2月2日(土) 移動自然厳寒体験教室「歩くスキーでトレッキング」。
- 2月4日(月) 山田治さん（アイヌ語地名研究家）来館。円子紳一さん来館。
- 2月5日(火) 浦幌小学校3年生「昔の道具…おばあちゃんの知恵袋」。講師：寿大学生と佐藤館長。
2013全国孔版画賀状展会期終了日。猟友会野口昌靖さん来館。
- 2月15日(金) 収蔵資料「ひな人形展」（～3月3日）開催。
北海道アイヌ協会浦幌支部差間正樹支部長来館。
- 2月16日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 2月18日(月) 北海道アイヌ協会浦幌支部桃井里奈さん来館。帯広百年記念館持田誠学芸員来館。後
藤秀彦さん寄贈のため来館。
- 2月19日(火) 円子紳一さん来館。猟友会野口昌靖さん来館。
- 2月20日(水) 円子紳一さん、荒川和子さん来館。
- 2月21日(木) 定例校長会議。定例教育委員会。
佐藤館長、商工会主催バードウォッチング参加。
- 2月25日(月) 定例教頭会議。
- 2月26日(火) ソーゴー印刷(株)島崎なつみさん来館。猟友会野口昌靖さん来館。
- 2月27日(水) 大同出版紙業(株)藤井陸香さん来館。
- 3月1日(木) 佐藤館長、北海道大学視察。
- 3月3日(日) 収蔵資料「ひな人形展」会期終了日。ひな人形展写真撮影会。
- 3月4日(月) 昭和27年十勝沖大震災写真展（～28日）開催。
うらほろスタイルゼミナール「浦幌の海生堆積物から知る過去の大津波」開催。
講師：北海道教育大学釧路校 境智洋准教授。荒川和子さん来館。
- 3月5日(火) 図書館・博物館協議会。
- 3月6日(水) うらほろスタイルゼミナール「十勝に人が住み始めた頃」開催。
講師：帯広百年記念館 北沢実館長。大同出版紙業(株)藤井陸香さん来館。
円子紳一さん来館。
- 3月7日(木) 佐藤館長、満天星空ツアー（コスミックホール）手伝い
- 3月8日(金) 山田治さん（アイヌ語地名研究家）来館。
- 3月9日(土) うらほろスタイルゼミナール青少年国際文化交流事業「ラップの人々との交流を語る」
開催。講師：浦幌町アイヌ生活指導員 桃井里奈さん。
- 3月11日(月) 東日本大震災追悼の黙とう（14時46分）
第1回町議会定例会。猟友会野口昌靖さん来館。
- 3月12日(火) 荒川和子さん、円子紳一さん、坂下禮子さん来館。
- 3月13日(水) 大同出版紙業(株)藤井陸香さん来館。
佐藤館長、東十勝ロングトレイル協議会に出席。
- 3月14日(木) 円子紳一さん来館。
- 3月15日(金) 第1回町議会定例会（ナイター議会）。日本大学浦幌ヒグマ調査会小泉沙奈恵さん来館。
円子紳一さん来館。
- 3月16日(土) 収蔵資料レコードコンサート開催。
- 3月18日(月) 佐藤館長、浦幌町学校へ小中一貫教育推進委員会地域コーディネーター会議出席。定
例校長会議。定例教頭会議。第1回町議会定例会。
猟友会野口昌靖さん、池田寿彦さん来館。
- 3月19日(火) 佐藤館長、商工会地域振興調査事業委員会出席。
第1回町議会定例会。
- 3月21日(木) 佐藤館長、上浦幌公民館へ上浦幌寿大学閉校式出席。

第1回町議会定例会。

3月22日(金) 円子紳一さん来館。

3月23日(土) 佐藤館長、札幌市へ学芸員のための日本刀実践講座（～24日）出席。

3月24日(日) 佐藤館長、札幌市より帰省。

3月25日(月) 教育委員会協議会。定例教育委員会。自治労功労者表彰式。

三笠市立博物館栗原憲一主任研究員来館。

3月26日(火) 円子紳一さん来館。社会教育委員の会議。

3月27日(水) 円子紳一さん来館。

3月28日(木) 荒川和子さん、円子紳一さん、春日基江さん来館。

3月29日(金)

IX. 博物館の利用状況

(1) 博物館入館者の推移

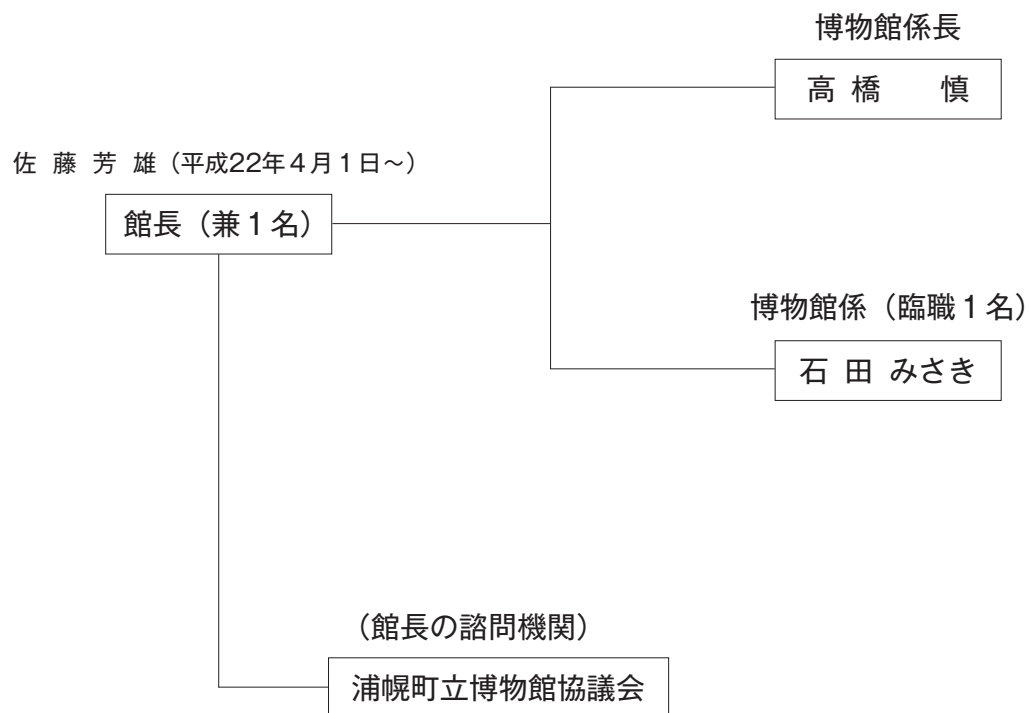
(平成25年 3月31日現在)

	平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
月	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数	開館日数	入館者数
4	25	630	25	725	25	573	25	582	26	664	26	611
5	25	561	25	602	25	647	25	545	26	997	27	969
6	26	785	25	843	25	739	26	654	26	753	26	812
7	26	857	27	817	27	616	27	862	27	1,185	26	1,322
8	27	1,115	27	1,022	26	1,058	26	1,111	26	1,077	27	984
9	26	881	24	588	24	707	25	848	25	866	26	769
10	26	639	27	589	27	967	27	729	26	784	26	1,028
11	24	525	25	764	24	599	23	859	26	830	26	780
12	25	583	24	652	25	613	25	482	26	793	26	376
1	22	371	23	497	23	558	22	501	22	680	22	451
2	25	476	23	300	23	423	24	472	25	527	24	596
3	25	662	25	752	25	490	27	826	26	856	27	950
小計	302	8,085	300	8,151	299	7,990	302	8,471	307	10,012	309	9,648
累計	2,477	79,752	2,777	87,903	3,076	95,893	3,378	104,364	3,685	114,376	3,994	124,024

(2) 団体入館者（事前に連絡のあったもの）

5月23日 帯広市三七東遊会視察研修	30名	9月1日 とかちキムンカムイの森移動研修	20名
5月26日 地域生活支援事業所	29名	9月7日 豊頃町豊寿大学	19名
5月26日 東十勝ロングトレイル「森ルート」	29名	9月12日 帯広市啓新クラブ移動研修	30名
6月9日 北海道教育大学教育大学部釧路校生 町内巡検	30名	9月13日 新得町郷土研究会移動研修	12名
6月10日 フットパス全道大会	70名	9月19日 幕別町白人小学校6年生「大地のつくり」研修	59名
6月13日 帯広広和会	28名	9月24日 豊頃小学校6年生理科学習指導「地層と化石」	19名
6月16日 帯広百年記念館	38名	9月28日 帯広浦幌会移動研修	30名
6月25日 帯広市三西支朋寿会移動研修	30名	10月2日 厚内小学校社会見学	8名
6月30日 町内教職員ふるさと移動研修 町内巡検	4名	10月3日 北海道移住体験者 浦幌巡検	10名
7月4日 道民カレッジフレンズ十勝「十勝の歴史を訪ねて」	70名	10月4日 帯広市稲田西長和会	15名
7月7日 上浦幌PTA連合会町内研修	25名	10月7日 畜産大学ジオツアー指導	42名
7月9日 帯広市山望実年会研修	36名	10月11日 上浦幌中央小学校地域学習	10名
7月10日 大樹町寿大学	15名	10月11日 豊頃町「豊寿大学写真科・文学科共同学習会」	15名
7月16日 北栄小地区生涯学習推進委員会移動研修	33名	10月14日 帯広市西小地区生涯学習推進委員会バス学習「東十勝の歴史」	33名
7月24日 上浦幌中央小学校3・4年生	9名	10月20日 東十勝ロングトレイル「森ルート」	35名
7月30日 厚内子ども博物館見学「昼間のナイトミュージアム」	18名	10月23日 新ひだか町議会文教厚生常任委員会	9名
8月27日 浦幌小学校5年生理科学習	38名		

X. 博物館の組織



平成24年3月31日現在

職 名	氏 名	住 所	備 考
会 長	橋 本 友 子	栄 町 2 区	
副会長	有 坂 一 子	住吉町2区	
委 員	太 田 朋 則	住吉町1区	
〃	中 村 吉 昭	緑 町	
〃	坂 下 禮 子	光 南	
〃	円 子 紳 一	北 栄 2 区	
〃	春 日 基 江	北 町 2 区	
〃	西 森 七 枝	新 町	

(任期 平成25年12月18日まで)

XI. 博物館活動のマスコミ報道

高台から野鳥を観察する参加者



ハクガンなど
24種を確認
浦幌渡り鳥観察会
【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「渡り鳥観察会

パート1」が14日、豊北海岸付近の湖沼群で開かれ、町内外の13人が参加した。渡りの時期のハクガン約40羽やシジュウカラガン約100羽のほか、マガンやオオヒシクイ、ハクチョウなど24種類の野鳥が確認できた。

参加者は同博物館を出発後、十勝太遺跡展望台へ向かい、高台から広範囲に観察。その上で、ハクガンなどを探して近い場所まで移動し、路上からも見て回った。

しみ抜き・手仕上げ
上田クリーニング
帯広市西3南4 電話2312539

動し、路上からも見て回った。

早朝に出ていた霧も晴れ、ガン・カモ類の他、オジロワシやタンチョウ、ベニマシコ、カワウなど多彩な種類を身近で見ることができた。参加者は自然の豊かさを実感していた。

(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2012年4月20日

あす歌声サロン
教育文化センター

【浦幌】町立博物館・図書館（町桜町、教育文化センターらぼろ21内）の「ミニ歌声サロン・レコードコンサート」が21日午後1時から、同センターロビーで開かれる。

同博物館所蔵の懐かしいレコードを町民寄贈のプレイヤーで鑑賞するほか、レコードの歌詞カードを見ながら、演奏に合わせて一緒に歌おうという趣向。参加無料。聴きたいレコードがあれば持参。問い合わせは博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2012年4月20日

本物の鎧兜と 五月人形並ぶ

端午の節句収蔵展

【浦幌】町立博物館（佐藤芳雄館長）の「端午の節句収蔵展」が、同館のある教育文化センターらぼろ21の1階ロビーで開かれている。本物の鎧兜（よろいかぶと）や五月人形が並び、町民の目を楽しませている。

鎧兜1組は1968年に町民から寄付されたもので、戦国時代から江戸時代

五月人形や鎧兜に子どもも大喜び



ごろにかけて、実際に使われていたとみられる。現代の五月人形や兜の段飾りも展示している。

5日まで。午前10時～午後5時。最終日は午後1時

～同3時の間、五月人形と一緒に写真撮影ができ、同博物館が参加者に写真をプレゼントする。問い合わせは同館（015・576・2009）へ。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年5月2日

■浦幌 ウラホロイチゲ観察



町立博物館のミニ移動講座「ウラホロイチゲ群落観察会」が4月28日、町内で開かれた。写真。

ウラホロイチゲは浦幌など十勝の一部と釧路管内でしか見ることのできないキンポウゲ科の植物で、観察会はこの時期だけ行われる。この日は13人が参加。町内2カ所の群生地、ウラホロイチゲの小さな白い花を観察。ほかにクロユリやエンレイソウ、ザゼンソウ、青紫色の花が多いエゾエンゴサクの白いタイプも見つかり、参加者は「かわいらしい」「小さいね」「など喜んでいました。」

「十勝毎日新聞」 2012年5月7日

野生動物生き生きと

漂着アザラシの会 浦幌で写真展

【浦幌】漂着アザラシの会（千嶋夏子代表）主催の野生動物写真展「十勝沖・海の動物たち」が、町立博物館特別展示ホール（町桜町、教育文化会館らぼろ21・1階ロビー）で開かれて

いる。13日まで。同会は沖合で沿岸の生物調査を行っており、2010年4月から2年間の調査では82種の鳥類と6種の海獣類を確認した。今回は生き生きとした野

生の姿を捉えた78枚の写真「い」としている。開場は午前10時～午後5時。入場無料。はウミガラス、ウミバト、ウミオウム、ウミズメ、エトロフウミズメなど12種類の写真があり、それぞれほかの鳥にちなんだ名前が付けられた鳥がどんな姿なのか観察するのも楽しい。アホウドリ、コアホウドリ、クロアシアホウドリの3種類も比べて学ぶこともできる。同展は5月に帯広百年記念館で開かれ好評だった。同会は「地元の人にもぜひ多様な生物がいることを実感してほしい」

迫力ある野生動物の写真に見入る子供たち



「十勝毎日新聞」 2012年6月6日

自然、歴史、考古学テーマに

浦幌町立博物館で7、8月講座

【浦幌】町立博物館（町桜町、佐藤芳雄館長）は7、8月に浦幌の豊かな自然や地球の歴史、考古学をテーマにした講座を集中的に開催する。子供や家族連れに夏の思い出となる楽しく勉強できる場を提供する。

K/T境界層観察会も



自然の中で古代のロマンに触れよう
（昨年の化石観察会から）

今回の行事のうち、6550万年前、恐竜絶滅を招いた小惑星衝突の痕跡とされる「K/T境界層」の露出地点（町茂川流布）の観察会は、同地が世界的にも貴重で、通常は近寄れない場所であることから貴重な機会となる。

屋外行事は長靴、帽子、防虫スプレーなど野外に適した服装で。雨天中止の場合あり。詳細は事前に確認を。先着順。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

（大笹健郎）
各講座日程は次の通り。
▽ミニ移動講座「夏鳥編」
7月14日午前9時、博物

館集合。森林公園や豊北地区で野鳥観察。定員10人、小学生以下は保護者同伴。
▽博物館講座「昆虫編」
8月15日午前9時、博物館集合。森林公園で町やトンボを採集し、標本作りも行う。定員20人。

▽子ども考古学教室出前講座
8月21日午前9時、2階学芸員室。土器や石器のお話や勾玉（まがたま）づくりに挑戦。定員20人、小学生以下は保護者同伴。

▽ミニ移動講座「新第三紀の浦幌を探る」
8月28日午前9時、博物館集合。厚内方面で1500万年前の化石を採集。定員10人、小学生以下は保護者同伴。

▽移動講座「恐竜絶滅の謎を探る」
K/T境界層探索
8月11日午前9時、博物館集合。定員30人、小学生以下は保護者同伴、小雨決行。

「十勝毎日新聞」 2012年7月6日



浦幌の地層に残った津波の痕跡の標本

巨大津波 痕跡 地層標本で

10町南西部
10年に採集
浦幌町立博物館で展示

【浦幌】400～500年間隔で来襲すると言われる巨大津波の痕跡の地層標本を展示する「浦幌の地層に刻印された巨大津波展」が浦幌町立博物館（教育文化センターらぼろ21）ロビーで開かれている。

標本は、道教育大釧路校地域学校教育専攻授業開発コース・堺智洋准教授の研究室が、町南西部のヌタベツト地区の湿原（海岸から約1100㍎）の場所で2010年5月16日に採集・製作したものを借り受けた。穴を掘り、露出した地層に薬剤を塗布してはき取ったもので、大きさは約1㍎。

「400～500年間隔」明示

地層からは17世紀の樽前山や駒ヶ岳噴火の火山灰と、9世紀ごろの白頭山噴火によって積もった火山灰の間に2度、津波が進み込んだと考えられる海成砂層が堆積しているのがはっきり分かる。文獻や堆積物から砂層は17世紀13世紀のものとみられ、400～500年の間隔で大津波が来襲していることを示している。詳細な解説パネルも展示されている。同博物館の佐藤芳雄館長は「地層の中の『証人』を素直に見て、巨大津波を現実の問題として感じてほしい」と話している。会場ではこの他、東日本大震災の大津波で被災した岩手県や宮城県、千葉県などの震災直後の写真や、同じく1年2カ月後の写真、町内の海岸に漂着した漂流物の写真も展示されている。同展は8月末までの予定。入場無料。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年7月11日

あす考古学教室 「勾玉づくり」

町立博物館

【浦幌】町立博物館（町桜町）の夏休み子ども考古学教室「勾玉（まがたま）づくり」が21日午前9時から、同博物館2階学芸員室で開かれる。北海道立埋蔵文化財センターから講師が

出張し、縄文時代の暮らしや土器、石器の話聞き、縄文・弥生時代のアクセサリーのひとつ勾玉づくりに挑戦する。定員20人、小学生以下は保護者同伴。タオルとイチゴの空パック、または小さな洗面器を持参する。参加無料。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2012年7月20日

ヒスイの勾玉 モデルに首飾り 考古学教室で製作

【浦幌】「夏休み子ども考古学教室 勾玉（まがたま）作り」（北海道文化財保護協会、道立埋蔵文化財センター、町立博物館主催）が21日、同博物館で開かれ、小学生ら約20人が昔のアクセサリー作り挑戦した。

同協会（札幌市）の高久忠明専務と、同センター（江別市）第1調査部普及活用課の倉橋直孝主査が先生役を務め、大昔の人々の暮らしを説明した。

作品を手に笑顔を見せる子供たち



しを説明した。
続いて、千歳市のキウス

4遺跡から出土した、約3000年前のヒスイの勾玉

をモデルに制作に挑戦。軟らかい石を原料に、5種類の紙やすりを目の粗い順に使い、直方体の石から数字の「9」に似た独特の曲線を削り出し、首飾りを完成させた。家族3人で参加した石田正龍ちゃん（5）は「うまくできた。磨くのが楽しかった」と笑顔で話していた。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年7月25日

ミニ移動講座 28日に博物館

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「新第三紀の浦幌を探る」が28日午前9時から町内で開かれる。

同博物館（町桜町、教育文化センターらぼろ21）に集合。厚内方面の川などでタマキガイなど2枚貝の化石を採集、遠浅の海だった約1500万年前の浦幌の自然について考える。

参加無料、小学生以下は保護者同伴。長靴、軍手、虫よけスプレー、飲料水など野外活動に適した装備で。ハンマーを持参するとよい。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2012年7月26日

新種のウラホロ シンカイヒバリガイ



世界的にも貴重な「ウラホロシンカイヒバリガイ」の化石

セミナー開催

【浦幌】セミナー「地球を食べる」生物の化石―ウラホロシンカイヒバリガイの産出意義―（町立博物館主催）が、8月4日午後7時から町教育文化センターらぼろ21（町桜町）で開かれる。深海に生息する貝シンカイヒバリガイの仲間を2009年に町内で発掘し、翌年、新種「ウラホロシンカイヒバリガイ」（学名・バシモディオルス・イノウエイ）であることを発表した天野和孝上越教育大教授を講師に招く。

来月4日 発掘した天野^{上越教育大教授}が講師

シンカイヒバリガイは、海底の湧水に含まれるメタンや硫化水素を分解する化学合成細菌を、体内に共生させてエネルギーを得る「化学合成生物群集」に属す。

ウラホロシンカイヒバリガイは約3000万年前の地層から発見。北米で発見された世界最古の化石（約4900万～4800万年前）と、長野県で見つかった化石（約1500万～1100万年前）との間を埋めるものと考えられ、深海生物の進化過程の解明に大きな役割を果たすと期待されている。

参加無料。申し込みは町立博物館（015・576・2009）へ。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年7月28日

貝の化石見つけたよ！

浦幌 博物館講座で体験会

【浦幌】町立博物館のミニ移動講座「新第三紀の浦幌を探る」が28日、町内で開かれた。帯広からの家族連れなど10人が参加し、貝化石の発掘体験で楽しい一日を過ごした。

町南東部の厚内地区周辺は化石を含む地層が露出している場所が多数あり、ウラボシやカキやバリガイやアロデスミスなどの化石

が発見されている。講座は実際に化石を発掘し、太古の浦幌の自然に触れてもらおうと企画した。



町内の元教諭和歌山満さん(65)が講師を務め、一行は海岸に近い河原へ。約1600万年前に堆積したとみられる無数の貝化石が川底や川岸に帯状に露出している地点では、参加者がハンマーやドライバーを使い、タマキガイやオウナガイなどの二枚貝を掘り起こして話していた。(大笹健郎)

化石を発掘し満足そうな表情を見せる小・中学生

3世代交流で流しそうめん 博物館探検も

【浦幌】3世代交流博物館講座「博物館探検と流しそうめん体験」(町立博物館、うらほろ和ころ体験塾主催)が5日、同博物館と浦幌神社で開かれた。夏休みを有意義に楽しく



長さ32歳の流しそうめんを楽しむ子供たち

過(そう)の共同企画で3年目の取り組み。町内外から約70人の家族連れなどが参加した。

午前中は博物館の展示室の他、収蔵庫など普段は見られない場所も見学。午後

は同神社に移動し、参道に「みんなでにぎわう」の願いを込めた長さ32歳の水路を作った。ボランティアの手でゆでられた約8キロのうめんやキュウリ、ミニトマト、白玉団子などを水路に流し、子供たちは歓声を上げて夏の一日を過ごした。

帯広市から参加した宮本龍太君(光南小4年)は「すごく楽しかった。流れが速くてびっくりした」と話していた。

(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2012年8月7日



一升瓶での精米を体験する子供たち

一升瓶で精米体験も

浦幌で「戦争」展
あす語り部の会

【浦幌】町立博物館（佐藤芳雄館長）の企画展「真夏の残像 戦争体験を伝え」が19日まで、同博物館（教育文化センターらぼろ21内）特別展示室で開かれ

ている。9日正午からは「語り部の会」として、戦争体験者を招き、戦中戦後の代用食「すいとん」を食べながら当時の暮らしについて語り合う。

終戦記念日に合わせた恒例の展示で、町民から寄付された戦時中の資料が並ぶ。町内の空襲の記録をはじめ、寄せ書きが書かれた日章旗や、軍服、大日本国防婦人会の厚内分会旗なども展示している。また、一升瓶の中で玄米を棒でついて精米する体験もでき、子供たちが興味深そうに体験している。

語り部の会には東京で戦争を体験した町民の村田一司さん（82）を招き、佐藤

11日に恐竜絶滅の謎を探る観察会

【浦幌】町立博物館（桜町、教育文化センターらぼろ21内）の移動講座「恐竜絶滅の謎を探る K/T境界層探索」が11日午前9時、同センター集合で行われる。

K/T境界層は6550万年前、恐竜絶滅を招いた小惑星衝突の痕跡とされ、世界的にも貴重な上、普段

は道有林のゲート内で近寄れないため、観察会は貴重な機会となっている。

参加費は保険料100円。小学生以下は保護者同伴。林道を往復4キロ程度歩くため、長靴、帽子、防虫スプレーなど野外に適した装備で。特に虫が多いので注意。

雨天中止の場合あり。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。（大笹健郎）

館長と対談する形で体験を聞き、すいとんを作って食べながら交流する。特別展に合わせ同センター内の町立図書館では、戦争に関する本の特設コーナーを設けている。いずれも無料。問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年8月8日

「十勝毎日新聞」 2012年8月9日

アンモナイト化石発見

十勝初
浦幌K/T層付近



浦幌町茂川流布で発掘されたアンモナイト化石の一部（白線枠内）。U字状になっているのが分かる。上半分の崩れた部分の岩にも貝殻の跡が繋がっていた



発掘現場で化石の説明をする三笠市立博物館の栗原憲一主任研究員

日本最新の資料か

【浦幌】浦幌町立博物館（佐藤芳雄館長）、足寄動物化石博物館（澤村寛館長）、三笠市立博物館（中村正法館長）が9日、浦幌町茂川流布の「K/T境界層」露出地点の近くで行った。アンモナイトの化石の発見は十勝では初めて。同

セラス科とみられるアンモナイトの化石が発見された。アンモナイトの化石の発見は十勝では初めて。同恐竜やアンモナイトのほと

んどが絶滅したとされる。層のすぐ下から見つかった今回の化石は、生物の歴史を研究する上で貴重な資料として関係者の注目を集めている。



今回の調査は、露出地点近くの河原に化石のようなものがあるという情報を受け、三笠市立博物館から栗原憲一主任研究員、加納学芸員を招いて実施。斜めに露出した同層より古い地層の、崩れやすい泥岩の中から、アンモナイトの表面のやすりのような細かい凹

凸が発見された。貝殻が渦状にならない「異常巻き」の個体で、筒状の貝殻がU字に湾曲していた。太さ約15mm、長さは直線換算で50mmほどの大きさ。岩盤の風化が著しく、自然状態では崩壊してしまうため、現状の型を取ったうえで採取した。

栗原主任研究員は「特徴からディプロモセラス科（白亜紀後期、9100万年から6500万年前に生息）のアンモナイトなのは確実。周辺の地質調査などを行って細かい種と年代を調べたい」と説明。「K/T境界層のすぐ下にあり、絶滅の前どんなアンモナイトが生息していたか研究できる貴重な資料。現状、日本で一番新しい時代のアンモナイト化石の可能性もある」と述べた。

また、足寄の澤村館長は「浦幌の他、足寄、本別の白亜紀の地層からもアンモナイトや同時代の動物化石が発掘できるかもしれない」と期待を寄せている。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年8月10日

【浦幌】町立博物館は11日、博物館移動講座として恐竜絶滅の謎を探る「川流布K-T境界層探索」を行う。K-T境界層とは6500万年前に巨大隕石が地球に衝突し、恐竜やアンモナイトが絶滅したとされる、中生代と新生代の境にある層。アジアでは唯一、町内川流布で発見されている。

「K-T境界層」観察 恐竜絶滅の謎迫ろう

あす浦幌で

講座では、片道約2キロを歩き、灰と粉じんでできた厚さ約5センチの黒い層を観察する。

午前9時、博物館前集合。小学生以下は保護者同伴。アブがおり野外に適した服装が必要。保険料100円。雨天中止。申し込みは博物館 ☎015・576・2009へ。

「北海道新聞」 2012年8月10日

あすナイト・
ミュージアム

【浦幌】町立博物館（町桜町、教育文化センターらぼろ21内）は、11日午後8時から館内で特別企画「ナ

すし膳 あま池
浦幌市西1条南17丁目 ☎011-90

イト・ミュージアム」を行う。

館内の自然や遺跡のジオラマなどを懐中電灯だけで探索する。小学生以下は保護者同伴。参加・入場無料。懐中電灯は持参する。申し込みは同館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2012年8月10日

貴重な発見に夢ふくらむ

浦幌で十勝初のアンモナイト化石

首長竜など発掘の可能性も

化石を撮影する三笠市立博物館の栗原憲一主任研究員。専門家にとっても貴重な発掘となった



【浦幌】「このアンモナイトは、隕石（いんせき）で生物が滅んでいくのを見ていたのかも知れない」「首長竜の化石もあるかも」。

は、2009年に厚内地区で発見されたウラボロシンカイヒバリガイが新種と分かったのを機に、大昔の生き物に関わる展示を充実。

町立博物館

町茂川流布のK/T境界層の近くから十勝初のアンモナイト化石が見つかつたことを受け、地元の関係者は貴重な発見を喜ぶとともに、子供たちに古代ロマンを提供し科学に興味を持つてもらう機会と捉えている。

新生代の各時代の貝類の化石をそろえ、ほ乳類の資料も充実させてきたが、地元発掘の化石類は全てK/T境界層より新しい時代のものである。境界層ができた隕石衝突で絶滅したとされるアンモナイトは、他地域から提供を受けたものだ。今回、地元から発掘されたものが加われば、より深みのある展示となる。また、ア

ンモナイトと同じ時代を生きた首長竜などの海に住むは虫類の化石が出てくる可能性もある。

今後、三笠、足寄、浦幌の3博物館で化石の精査や地質調査、レプリカ作りなどが進められる。浦幌の佐藤芳雄館長は「展示内容を変え、学校で使う郷土の歴史の副読本にも一文を添えられないか検討したい」

としている。

発掘地点の地元の上浦幌中央小学校の森雅仁校長は「身近に教材になるものが発見され、素晴らしい。子供たちの夢も広がります。自分も掘ってみたい」と興味を持つと思つ。郷土学習『うらほろスタイル』にも活用できそう」と期待していた。

（大笹健郎）

「時代空白埋める発見」

ウラホロシンカイヒバリガイ

上越教育大 天野教授が解説



講演する天野教授

【浦幌】上越教育大の天野和孝教授（古生物学）を招いたセミナー「地球を食べる」生物の化石―ウラホロシンカイヒバリガイの

産出意義」が、町教育文化センターらぼろ21で開かれ、研究者や教育関係者ら約20人が聴講した。

天野教授は世界的に貴重な新種「ウラホロシンカイヒバリガイ」（学名・バシモディオオルス・イノウエイ）を2008年に町内で発掘し、翌年、新種と発表

した。セミナーは4日に開催。天野教授は、太平洋のシンカイヒバリガイはこれまで、500万〜1000万年前の60ミ程度のも

現生の100ミ程度のもが発見されていたと指摘。その上で、「約3000万年前の地層から出たシンカイヒバリガイは約45ミで、時代空白を埋めるもの」と説明した。

恐竜絶滅につながった小惑星衝突の痕跡とされる6550万年前の「K/T境界層」の前後を調査できる浦幌の地層については「非常に貴重な場所」と評価した。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年8月12日

ヒグマの生態 楽しく考えよう

19日に「学校」

【浦幌】小・中学生を対象に、ヒグマの生態や人間との関係を楽しく考える「ヒグマの学校」（町立博物館主催、浦幌ヒグマ調査会共催）が19日午後1時から、同博物館（町桜町、町教育文化センターらぼろ21

・2階）で開かれる。

2002年から開かれていた人気の教室。同調査会会員で、町内でフィールドワークを行っている日本大学の学生、大学院生らが、毛皮やさまざまな標本、クマよけのグッズなどを使って分かりやすく説明する。参加無料。申し込みは同博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2012年8月15日

アンモナイト化石

発掘現場で 保護続ける

【浦幌】町茂川流布のK／T境界層露出点付近で十勝初の発見となったアンモナイトの化石について、浦幌町立博物館（佐藤芳雄館長）と足寄動物化石博物館（澤村寛館長）は11、12日、現場の化石の保護、採集を



アンモナイトの化石をシリコンで固め保護する足寄動物化石博物館の職員

続行した。

現場の岩盤は泥岩で非常に崩れやすく、9日の発掘では型取りと崩れた部分の採集を行ったが、今回はさらに凝固剤入りのシリコンを露出した化石の表面に塗布して保護、固定。さらに周囲を石こうで固め、全体を岩盤からはぎ取る作業に取り組んだ。

11日は、K／T境界層観察会に参加した町民ら約10人が現場を見学した。6550万年前の隕石（いんせき）衝突による堆積物の地層とそれによって絶滅したアンモナイトの化石を同時に観察。小倉理記也君（浦幌小6年）は「両方いつべんに観察できてうれしい。仲間に自慢していいそう」と話していた。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年8月12日

仲間を大勢失う
惨状の記憶語る
語り部の会で村田さん

【浦幌】町立博物館（佐藤芳雄館長）の企画展「真夏の残像 戦争体験を伝える」の会場で、戦争体験者を招いた「語り部の会」が開かれた。



戦争の記憶と森づくりへの
思いを語る村田さん

志願して軍属として東京へ。陸軍航空廠の立川陸軍航空・技能養成所に入った。一式戦闘機「隼」の整備などに関わっていたが、

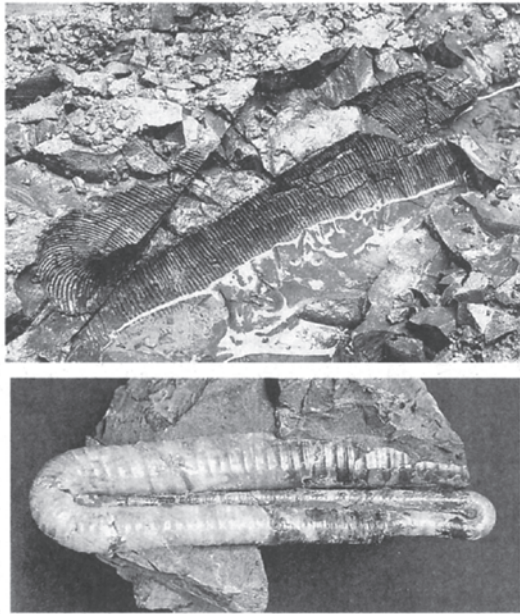
何度も空襲に遭い、仲間を大勢失った。遺体を処理した経験や、東京大空襲で真っ赤に染まった空と東京の惨状の生々しい記憶を語り、「今の若者には絶対体験させたくない」と述べた。

村田さんは帰郷後、地元（北村商店の林務部門（当時））に入社し、育林の技術者として55年。「国破れて山河あり」という言葉があるが、私は戦争があっても郷土の山林が健在なら大丈夫と思った。空気が水も畑も森があつてこそ」と自らの信念について語っていた。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年8月15日

最後のアンモナイト？

【浦幌】恐竜を含む多くの生物が絶滅した約6550万年前の「大量絶滅」を示す地層が国内で唯一ある十勝管内浦幌町で、この地層の近くにある古い層から、アンモナイトの化石が見つかった。アンモナイトもこの大量絶滅で姿を消しており、浦幌町立博物館（佐藤芳雄館長）などは、化石が「絶滅直前のアンモナイト」だった可能性があるとして調べている。



①発掘後の地表。アンモナイトの殻の模様がくっきり残っている。②ディプロモセラス科のアンモナイト化石（三笠市立博物館「アンモナイト化石写真集」より）

浦幌「大量絶滅」直前の地層

道内で新発見の可能性

大量絶滅があったのは「K-T境界層」と呼ばれる地層。巨大隕石の落下で巻き上がった粉じんが地球を覆った時代の層とされる。国内では唯一、1984年に浦幌町の茂川流た。国内最多のアンモナイト化石を有し、発掘協力を依頼された三笠市立博物館による。化石は今月上旬、K-T境界層がある場所から下流十数kmの川岸の泥岩層から発掘され（6550万年前）とみられており、「北海道では発見されていない種類の可能性もある」と言う。



発掘の際に割れた化石を調べる三笠市立博物館の栗原主任研究員

と、この泥岩層は、K-T境界層より数万年前、数十万年ほど古いとみられ、今後、地層を詳しく調べる。化石はアンモナイトの殻の部分で、長さ約30cm、幅約15cmのU字形。「異常巻き」と言われる種類という。三笠市立博物館の栗原憲一と話している。

アンモナイト 約4億年前の古生代デボン紀から海洋に広く生息し、イカやタコと同じ頭足類と呼ばれる軟体動物。6550万年前の中生代白亜紀末の「大量絶滅」で姿を消した。らせん状の殻が平面に巻かれた「正常巻き」と、白亜紀後期に増える複雑な巻き方の「異常巻き」がある。3億5千万年間も生息し、時代に応じた特徴的な変化を示すため、地層を特定する「示準化石」でもある。北海道は、世界的な化石宝庫として知られる。

見て触れてクマ学ぶ

浦幌町立博物館で教室

【浦幌】ヒグマの生態や人間との関係を考える「ヒグマの学校」(町立博物館主催、浦幌ヒグマ調査会共催)が19日、同博物館で開かれ、町内外の家族連れなど約20人が参加した。

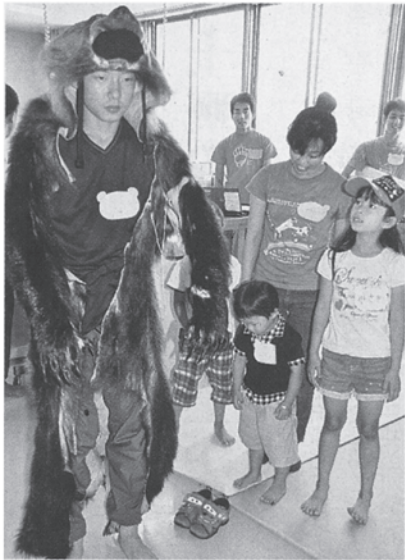
2002年から開かれていた人気の教室。同調査会の日本大学学生、大学院生10人が指導者となり、クイズ形式で実施。スライドで「クマの歩き方は?」「食

長崎琳久君(浦幌小6年)は「楽しかった。練習したのでいざというときも対処できそう」と話していた。このほか、シカ笛作りやヒグマかるたにも挑戦した。

同調査会(佐藤芳雄会長)は1998年に結成。町立博物館やハンターの協力を受けたが佐藤喜和・日大

生物資源科学部准教授(農学博士)の門下生や北大関係者が浦幌を中心に道東でフィールドワークを実施。今年度は各地のヒグマのふんの窒素を調べて栄養状態を分析しているほか、ヒグマの背こすりなどの生態研究を行っている。

(大笹健郎)



ヒグマの皮をまとった日大生が立ち上がったとき、子供たちはびっくり

「十勝毎日新聞」 2012年8月21日

浦幌炭礦街 ジオラマで再現



ジオラマの説明をする杉本さん（中央）。大型の物は詳細に再現した模型

札幌の杉本さん製作

建物内部も詳細に

町立博物館へ寄贈

【浦幌】1954年に閉山した「浦幌炭礦」（町炭山）の市街地の手作りジオラマを、同市街地出身の杉本明さん（76）札幌市在住Ⅱが製作し、18日、浦幌町立博物館（町接町、佐藤芳雄館長）に寄贈した。発泡トレイと工作用紙を使い、建物は約750分の1のスケールで作り、2畳ほどの広さに配置。また、主要な建物は5倍ほどの大きさの模型を製作、内部の構造物や色も再現した。杉本さんは「写真で見てもなかなか想像できないマチの姿を思い浮かべてほしい」と話している。

杉本さんは1936年、浦幌町生まれ。現在の中心市街地から小学校1年生の時に炭礦市街地に移り、中学卒業後、同市街地で配管などのアルバイトに従事。地域の主要建物の多くに立ち入り、構造を覚えていた。その後音別町（現釧路市）の尺別鉱業所などを経て、29歳で札幌に移り、機械整備などにかかわる仕事に従事していた。毎年、お盆には浦幌町内のお墓に家族で訪れ、同炭礦跡を訪問してきたが、最近では同炭礦の歴史を掘り起こす機運が高まっており、当時の記憶が鮮明な杉本さんも同博物館と相談し、現在の町民

方針。（大笹健郎）

が同炭礦を知るための資料の製作を決めた。ジオラマの建物は、杉本さん一家が住んでいた4軒長屋（長さ約30m）を4で再現して基準とし、炭礦の関連施設や公共施設、商店街などを配置。建物間の距離や土地の広さは若干修正してジオラマを製作。トンネルを通って尺別との間を結んでいた電車もパンタグラフまで丁寧に再現した。材料は食品容器の発泡トレイを利用。また、学校や共同浴場などは当時の外装、内装、色も忠実に再現した模型を製作。例えば映画や演劇が行われた「協和会館」は、これまでも中の構造や戦前、戦後の変化について詳細な記録はなかったが、杉本さんは築屋の位置やビリヤード場も再現した。

「十勝毎日新聞」 2012年8月20日

アイヌ語地図を寄付

帯広の「浦幌版」を町教委に
山田さん

【浦幌】アイヌ語地名の手書き地図「北海道アイヌ語地名のいわれ」シリーズを製作している帯広市内の山田治さん（78）が22日、町教委を訪れ、同地図の浦幌町版を寄付した。

山田さんは今年5月、町教委を訪れ、これまで製作した十勝をはじめとする地図20枚を寄付。このときに久門好行教育長から「浦幌に特化したものがないか」と提案があり、製作を

進めていた。地図には地域名や山、河川、湖沼などのアイヌ語由来の他、神社の起源など数百項目を記載。また、「浦幌をアピールするために」十勝の東の玄関

浦幌町がクロスアップされたアイヌ語地名地図を手にする山田さん（右）と久門好行教育長



との表記を入れ、町を象徴する2つの化石、アンモナイトとウラボロシンカイヒバリガイについても記載した」という。

地図を受け取った久門教育長は「地名を探究し一字一字丹精を込めて肉筆で作った地図は素晴らしい」とたたえた。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年8月27日

やまびこ

厚内川支流から見つけた貝化石が貴重な新種だったことが分かり、和名をウラボロシンカイヒバリガイと名付けられて2年。学会に発表した古生物学者の天野和孝上越教育大教授と、共同研究者のロバート・ジェンキンス横浜国立大学特別研究員が今夏、久々に浦幌を訪れ、町内の広い範囲の地層で調査を行った。中でも中生代と新生代を区切るK/T境界層の露出地点は、古生物学者にとって境界前後の生物を比較できる最高の研究対象だった。

露出地点近くには、今年に入り「化石ではないか」と言われてい

アンモナイト発見 どう生かすか

た石があった。2人は一見して「これ、アンモナイトだよ」と明言。地元の浦幌町立博物館の手配で三笠市立博物館からアンモナイト研究の専門家・栗原憲一主任研究員らが駆け付け、足寄動物化石博物館とも協力して保全・発掘を行った。化石のうち本体側は風化してばらばらになってしまったが、痕跡側はきれいな形を撮影できた。アンモナイト自体は全体的に珍しくはないが、K/T境界層との組み合わせは、研究者から注目を集めている。地元にとってはまさに世界に誇れる地球からの贈り物だ。郷土学習に力を入れる浦幌町が、教育に、そしてまちづくりにどう生かしていくか注目したい。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年8月25日

三笠博物館で研究進む

浦幌で発見のアンモナイト

【浦幌 三笠】8月9日に浦幌町茂川流布のK/T境界層露出地点付近で発見されたアンモナイト化石の調査が、三笠市立博物館で進んでいる。栗原憲一主任研究員によると、アンモナイトの種類はディプロモセラス科のディプロモセラス属の一種と判明。また、風化して分解してしまっていた化石本体もアクリル樹脂で補強され、復元作業に入っている。浦幌の一般住民が復元された化石の姿を見られるのは、来春ごろになりそう。

来春にも復元模型を披露



復元中のアンモナイト化石を手にする栗原主任研究員

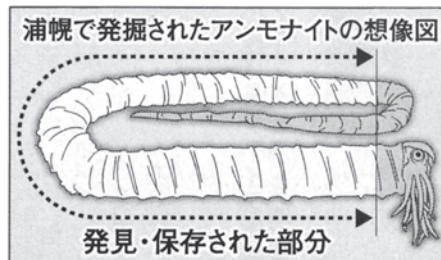
アンモナイトは化石だけ見ると巻貝のようだが、イカやタコと同じ頭足類に分類される。ディプロモセラス科のアンモナイトは、きれいな渦巻きではなく、「の」の字をつぶしたような形が特徴で、筒状の貝殻には肋(ろく)と呼ばれる

筋が細かく入っており、その特徴などからディプロモセラス属のものと分かった。種の特定にはさらに時間がかかるという。化石の筒状の本体部分は50個ほどに碎け、さらに分解しそうだったが、一つひとつ補強され、現在、パズルのように組み立てる作業が進んでいる。足寄動物化石博物館が現場から地盤ごとにはぎ取った痕跡部分も三笠に届き、合わせて復元・保全作業が行われている。年度内には復元模型が出来上がり、来春にも浦幌で公開できそう。

発見されたのはK/T境界層より10メートル下の場所。6550万年前とされる同層から何万年前なのかは分かっておらず、今後、地質調査が行われる。

栗原主任研究員は「アンモナイトの1つの種は数十万年〜100万年続くのが一般的。この個体と同じ種が絶滅まで生きていた可能性が高い。この化石を調べることで、白亜紀の終わりに何が起ったのか、明らかにできれば」と話している。

(大笹健郎)



〈K/T境界層〉恐竜やアンモナイトが生きていた中生代と、哺乳類が主役となった新生代を区切る地層。メキシコのユタ半島に巨大隕石(いんせき)が衝突した際に発生した粉じんが堆積したものといわれ、この衝突の影響で環境が激変し恐竜やアンモナイトが絶滅したとされる。国内で唯一、浦幌で確認されている。

「十勝毎日新聞」 2012年9月7日



浦幌で発見されたアンモナイト化石の破片に触れる千代川さん（左）。右は尚子さん

「周辺保護、調査必要」 千歳化石会・千代川さん 浦幌訪問

アンモナイト発見で助言

【浦幌】金道の学校や博物館にアンモナイトなどの化石を寄付し、教育に生かしている千代川謙一さん（67）と尚子夫人（70）と共に、8月に町内のK/T境界層直下

でアンモナイトが発見されたことについて、「境界層、周辺の保護と詳しい調査が必要」と話した。

千代川さんは同市の千歳化石会（服部義幸会長）の主宰。幼少時から化石の研究に没頭、1987年に同会を立ち上げ、道内各地で多数の化石発掘に携わった。化石クリーニング教室などにも熱心に取り組んでいる。

これまで足寄や幕別（忠類）など道内外の博物館や学校、病院ロビーの展示用などに化石を寄付。浦幌にも2010年、博物館としては52館目となる寄付を行い、アンモナイトなど約50点を提供した。12年前に視

化石発見の意義紹介

【浦幌】町立博物館のうらぼろスタイル教育センター「アンモナイト化石発見の意義」が、12日午後7

三笠博物館研究員 招きあす講演会

時から町教育文化センターらぼろ21（町桜町、役場隣）で開かれる。

8月に町茂川流布のK/

「T境界層露出地帯近くで十勝で初めて確認されたアンモナイト化石について、発掘・調査に当たった三笠市立博物館の栗原憲一主任研究員・古生物学が講演する。恐竜やアンモナイトの絶滅の原因となったとされる、巨大隕石（いんせき）衝突の痕跡である同層の直下で発掘された学術的価値について語る。」

2009へ。

アンモナイトの研究
あす最前線学ぶ講演

【浦幌】8月に町内茂川流布の絶滅直前とみられる地層から発見された「異常巻き」といわれる種類のアンモナイトについて、復元と調査を続けている三笠市立博物館の栗原憲一主任研究員が12日午後7時から、町立博物館で講演する。

テーマは「アンモナイト化石発見の意義」。

茂川流布では、恐竜などが絶滅したとされる6550万年前の「K-T境界層」が国内で唯一確認されている。その地層のすぐ下から発見されたアンモナイト化石から何が分かるのか。アンモナイト研究の最前線を学ぶ。

入場無料。定員30人で、申し込みは町立博物館 ☎ 015・576・2009へ。

「十勝毎日新聞」 2012年9月11日

「北海道新聞」 2012年9月11日



浦幌町立博物館

入場すると、アオサギのコーナーのジオラマが目を引く。浦幌町立博物館。浦幌の豊かな生態系や人の歴史と暮らしを6つのコーナーに分けて展示している。特に十勝川河口部の遺跡群から発掘された土器・石器、縄文時代の墓の発掘大模範は高い評価を得てきた。アイヌ民族の生活文化、浦幌炭礦の資料なども充実している。

近年、注目されているのは、町内で発見されるさまざまな化石群だ。2009年に厚内川支流で発見された、近年新種と判明した「ウラボシシカイヒバリガイ」(学名: パシモディオルス・イノウエ)は、約3000万年前の地層で見付かった。博物館では化石の実物と詳細な解説を見る

「K/T境界層」の展示も

ことが出来る。哺乳類では1991年に発見された「アロステム」への化石、アフリカも展示されている。浦幌の茂川流布地区には、恐竜やアンモナイトが絶滅した原因と言われる巨大隕石(いんせき)衝突の痕跡「K/T境界層」が露出しており、この地層も展示されている。今年8月には、この地層の直下からアンモナイトの化石も発見され「最終世代のアンモナイト」の可能性もあわせて注目されている。数々のうちには浦幌でも展示できる見込みだ。

佐藤秀雄館長は「化石発掘体験などフィールドでの体験と展示をリンクさせ、子供たちの教育や研究に役立ちたい」と話している。

(大笹健郎)

十勝管内にある公設・私設の博物館や美術館などを記者が訪れ、毎週1施設ずつ紹介する。

〈住所〉浦幌町桜町16ノ1、浦幌町教育文化センターらぼる21内
 電話 015-576-2009
 〈開館時間〉午前10時～午後5時
 〈入館料〉無料
 〈休館日〉月曜日、祝日の翌日、年末年始



十勝の観光・グルメを網羅した『まんぷく十勝 2011～2012』管内書店などで発売中 ¥890

新たに加わった化石群の展示は子供たちに人気。右奥は佐藤館長



「十勝毎日新聞」 2012年9月13日

【浦幌】浦幌町茂川流布のK/T境界層露出地点近くで十勝初のアンモナイト化石を確認・発掘した三笠市立博物館の栗原憲一主任研究員(理学博士、層位・古生物学)が12日、町教育文化センターで講演した。栗原研究員は「絶滅直前にどんなアンモナイトが生息していたかを知る貴重な資料」と同化石発見の意義を説明した。

浦幌で十勝初「アンモナイト化石」

絶滅直前知る貴重資料

8月9日にアンモナイト化石「イプロモセラス属」。アンモナイトが発見されて以後、十勝で一般に絶滅した時期を示すK/T境界層が国内では浦幌でしか見つかっておらず、直下から発掘されたこの化石について、栗原研究員は「日本では一番最後まで生きていたアンモナイト類である可能性が高く、今後の調査で詳細を明らかにしたい」と述べた。また、同時代からモササウルス(はちゅう)類が見つかる可能性も示した。

トが、さらにその一部から現在のイカの祖先が生まれたと述べた。聴講した橋本陽光君(浦幌小4年)は「アンモナイトがもつ浦幌から出てきたら、他の町に自慢できる」と目を輝かせていた。

また、栗原研究員は「三笠市で取り組んでいるジオパーク構想について、化石や地層などを教育やまちづくりを生かし、地域への誇りを育てる事業」と説明。聴講した住民からは「浦幌町のふるさと学習『うらほろスタイル』と共通点がある」と話していた。

現場周辺で地質調査も

栗原研究員は11、13日、今回の発掘現場周辺で地質調査を実施。同境界層の露出地点を流れる川の周辺で約20個のサンプルを採取した。炭素などを分析してより詳しい年代を調査する。(大笹健郎)

発掘した栗原氏が講演



聴講者にアンモナイトの特徴について説明する栗原主任研究員(右)

栗原研究員はアンモナイトの基礎知識として、「現在のオウムガイやイカ、タコなどと同じ頭足類で顎の構造からイカに特に近い」と説明。系統的には、一約5億年前から生息しているオウムガイからアンモナイト



K/T境界層近くで地質調査を行う栗原主任研究員(手前)

「十勝毎日新聞」 2012年9月15日

旧浦幌炭礦と 紅葉ツアー

来月20日開催

東十勝ロングトレイル協議会（会長・萩原一利・帯広建設業協会会長）主催の「森のルート 旧浦幌炭礦と紅葉ツアー2012」が10月20日に行われる。

午前8時半に帯広建設業協会（帯広市西7南6）に集合。バスで浦幌に向かい、炭山地区にある旧浦幌炭礦市街地跡約2キロをガイド同行で散策後、留真温泉までの約9キロをトレイルする。留真温泉で入浴後、浦幌町内で懇親会を開く。

旧浦幌炭礦市街地にあるあずまや四阿と炭山―留真温泉ルートの途中にパブを開設し、飲み物や軽食のサービスも行う。

雨天の場合は浦幌町博物館、旧浦幌炭礦の見学、留真温泉入浴ほか、イクラしような漬け講習会、もしくはそば打ち体験などを用意する。

募集人数は30人。参加費5000円（昼食、懇親会、バス代、ガイド料、入浴料、保険含む）。申し込み、問い合わせは豊頃町商工会内の事務局（015・574・2206）へ。締め切りは10月15日。

「十勝毎日新聞」 2012年9月17日

レコード聴いて みんなで歌おう

あすコンサート

【浦幌】町立博物館・図書館（町桜町、教育文化センターらぼろ21内）の「ミニレコードコンサート」が22日午後1時から、同センターロビーで開かれる。

同博物館所蔵の懐かしいレコードを町民寄贈のプレイヤーで鑑賞する他、歌詞カードを見ながら、演奏に合わせて一緒に歌う趣向も。参加無料。聴きたいレコードがあれば持参を。問い合わせは博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2012年9月21日

6日にヒグマ生態、K/T境界層の講座
【浦幌】町立博物館ミニ移動講座「ヒグマの生態を探る」と「恐竜とアンモナイト絶滅の謎を探る」が6日、同博物館（町桜町）発着で開かれる。
 申し込み、問い合わせはともに同博物館（015・576・2009）へ。
 各講座の内容は次の通り。
 ▼ヒグマの生態を探る 午前9時から。町炭山地区の林道などを10分ほど歩き、冬眠前のヒグマのふんや足跡を調べたり、背こすりの木を観察する。浦幌ヒグマ調査会のメンバーが同行する。定員は10人（小学生以下は保護者同伴）。参加費は100円（保険料）。雨天中止。帽子や軍手、長靴など野外に適した服装で。飲料水など持参を。
 ▼恐竜とアンモナイト絶滅の謎を探る 午後1時から。車で町茂川流布の「K/T境界層」露出地点へ移動し、巨大隕石（いんせき）の衝突で巻き上げられた粉じんが堆積した地層を観察。アンモナイト発掘現場も見学する。現場には通常は入れないため貴重な機会となる。
 定員は10人（小学生以下は保護者同伴）。雨天中止（小雨決行）。帽子や軍手・長靴など野外に適した服装で。飲料水などを持参する。

「十勝毎日新聞」 2012年10月4日

ミニ講座で 動植物学ぼう

10日から浦幌

【浦幌】帯広百年記念館のミニ講座が10、11の両日、町立博物館（教育文化センターらぼろ21内）で開かれる。

10日は一般を対象に「浦幌町の植物相について」を開催。同記念館の持田誠学芸調査員が、博物館が植物標本を収集する意義や、標本から分かること、浦幌の植物相の特徴などについて解説する。

11日は子供や親子連れを対象に「お話しとゲーム・エゾリスBOX」。同記念館の伊藤彩子学芸員、小林真樹博物館資料調査員が、自然環境と動物の関係、植物の種や花粉を媒介する虫との関係などをテーマに話す。

ともに参加無料。申し込みは7日までに町立博物館（015・576・2009）へ。

「十勝毎日新聞」 2012年11月6日

来月15日に
アイヌ料理教室

【浦幌】初心者アイヌ伝
統料理教室（北海道アイヌ
協会浦幌支部、町立博物館、
町中央公民館主催）が、12
月15日午前10時から同公民
館（町桜町）調理室で開か
れる。参加者を募集してい

る。
エハマメご飯、ムニンシ
ト、ラタシケップ、チエプ
オハウを調理する。講師は
アイヌ文化振興・研究推進
機構アドバイザーの山本み
い子さん（幕別）。エプロ
ン・三角巾を持参する。材
料代は1人500円。
申し込みは30日までに町

「十勝毎日新聞」
2012年11月28日

立博物館（015・576
・2009）へ。

■初心者アイヌ伝
統料理教室
12月15日午前10時から、
浦幌町公民館・調理室（町
桜町）で開かれる。参加者
を募集している。
北海道アイヌ協会浦幌支

部、浦幌町立博物館、浦幌
町中央公民館主催。
当日はエハマメご飯など
を調理する。講師はアイヌ
文化振興・研究推進機構ア
ドバイザーの山本みい子さ
ん（幕別）。材料代は1人
500円。エプロン・三角
巾持参。
申し込みは11月30日まで

「十勝毎日新聞」
2012年11月29日

に同博物館（015・57
6・2009）へ。

歌声喫茶 一夜限り「復活」

【浦幌】「一夜だけの歌声喫茶を」
1. 町教育文化会館らぼる21（町立図
書館・博物館）の1階ロビーに22日午
後7時から同8時までの1時間、歌声
サロン（浦幌町立博物館・図書館・中
央公民館主催）が開設される。主催者
は「家族や友達同士、誘い合わせて気
軽に参加を」と呼び掛けている。

浦幌に22日開設

ピアノの生演奏に合わせ、全員で大
きな声で歌おうという企画。歌詞カー
ドを参加者に配り、クリスマスソング
や童謡、唱歌、ポップスなど多彩に歌
う。歌唱指導は、「お話しぴあの会」
が行う。玄関横のため、暖かい服装で
の来館を呼び掛けている。

サロン終了後は、真つ暗な博物館を
懐中電灯を持って探索する「ナイトミ
ュージアム」も行う。

詳しくは同博物館（015・576
・2009）へ。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2012年12月8日

コンブ料理が好評

浦幌でアイヌ料理教室



【浦幌】「初心者アイヌ伝統料理教室」(北海道アイヌ協会浦幌支部、町立博物館、町中央公民館主催)が15日、同公民館で開かれた。町民ら10人が参加。コンブの取れる浦幌にちなみ、「コンブシト」(団子にコンブのたれをかけた物)にも取り組んだ。

アイヌ文化振興・研究推進機構アドバイザーの山本央「コンブシト」の作り方を指導する山本さん(中央)

みい子さん(幕別)が指導した。メニューは当初予定していた「エハママメシ」(ヤブマメとイナキビのご飯)、「ラタシケツプ」(あえ物)今回はトウモロコシ、金時豆、キハダの実などを使用。「チエプオハウ」(サケの汁物)など4品に、コンブシトなどを追加した。

「十勝毎日新聞」
2012年12月18日

み、水で溶いたでんぷんでとろみを付けた。初めて食べた参加者からは「香ばしくておいしく、栄養面でもいい」と好評だった。

この他、チエプオハウはサケやフキ、ギョウジャニ話していた。(大笹健郎)

22日にナイト ミュージアム

【浦幌】町立博物館(町桜町、教育文化センターらぼろ21内)は22日午後8時から、照明を消した館内を懐中電灯で探検する「ナイトミュージアム」を開く。

暗闇の中で自ら光を照らし、鳥類の剥製やアンモナイトなどの化石、土器、ジオラマなどを見学する。年2回ほど開かれ、好評を得ている。同館は「持ち物は懐中電灯と好奇心。昼間では味わえない世界を楽しんで」と呼び掛けている。

入場無料。小学生以下は保護者同伴。定員10人(申し込み順)。申し込み、問い合わせは同館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2012年12月11日



【田・浦】浦幌町立博物館に収蔵されている吉田康彦標本と呼ばれる植物標本約100点とがクリスマスに注目されている。吉田氏は戦前、東京で牧師をしていたが、1945年に浦幌町に農業で入会。57年に日本福音ルーテル池田教会（池田町旭町3）の初代牧師となった。11月に同博物館で開かれた展示会を機に、標本群の存在が教会の知るところに。23日には吉田氏が暮らした池田教会のクリスマス礼拝式で、24日は帯広教会の同礼拝式でそれぞれ信徒にお披露目された。

植物標本が里帰り

吉田氏が寄付した標本について説明する加納牧師（左から2人目）と、聞き入る信徒たち



関係者によると、吉田氏は戦時中のキリスト教会の強制合同で一時、牧師の職を失い、45年9月に食糧増産のための「集団帰農者」として浦幌町万年に入植。地元有志とキリスト教の家庭集会などを開いていた。一方、戦後、池田でも家庭集会を催い、57年11月に教会伝

が行われており、教会設立の機運が盛り上がり、経験者の吉田氏が初代牧師として迎えられた。

地元の大地主から土地の提供を受け、建物は市街地にあつた浦幌炭礦の集会所「協和会館」の隣に家屋を買い取り池田に

道所」が開設された。68年には新道路建設で移転、現在の教会が建てられた。

吉田氏は浦幌や池田などの植物を研究・採集し、同博物館に寄付。新しい教会建設の折には、野草の押し花色紙を作って販売し、建設資金に充てたという。

同博物館所蔵の標本は大きく注目されることはなかったが、11月、帯広百年記念館の移動展「博物館はなぜ標本を集めるのか」で「標本からわかること」のために訪れた帯広百年記念館の持田誠字芸調査員が詳しく調査したところ、同教会との関係の深さが分かり、教会と同博物館の協力でクリスマス礼拝での公開が実現した。

教会堂の十字架の前で、標本とかつての教会の様子を見た信徒たちは「標本になっても美しさが分かる」「吉田先生の人が分かる」などと歓談。加納寛之牧師（池田・帯広兼任）は「25日はクリスマスとともに、吉田先生（74年、札幌で死去）の命日でもある。その前にみんなで見られてよかった」と話していた。

(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2012年12月25日

真つ暗な博物館
懷中電灯で探検
ナイトミュージアム

【浦幌】町立博物館（佐）

藤芳雄館長)の企画「真冬のナイトミュージアム」が22日午後8時から、同博物館で開かれた。約20人が参加し、真つ暗な博物館の中を懐中電灯で探検した。

参加者はアオサギの営巣や魚を捕食する様子のジオリマやオオワシなどの剥製床下に再現された遺跡石器、海にすんでいた絶滅哺乳類アロデス・スミスの化石などを観察、興味のある部分に光を当てて、佐藤館長から解説を受けた。

佐藤館長は「子供たちが解説に集中し、学びの効果も大きい。昼間に照明を消して行うことも含め、年に数回開催したい」と話していた。

(大笹健郎)



ち
懷中電灯でアオサギのジ
オラマを觀察する子供た

「十勝毎日新聞」 2012年12月26日

20人一夜だけの 歌声喫茶で合唱

【浦幌】浦幌町立博物館・図書館・中央公民館主催の「歌声サロン」が22日、町教育文化会館らぼろ21ロビーで開かれた。お茶を楽しみ、ピアノの演奏に合わせて唱歌やフォークソングを歌う一夜だけの「歌声喫茶」を町民約20人が楽しんだ。

「お話しぴあのの会」（西田祐子代表）のメンバーが先導役となり、西田代表の



ピアノ伴奏で「赤い靴」「上を向いて歩こう」「学生時代」「バラが咲いた」など

子供たちからのリクエストもあり、楽しい時間を過ごした。（大笹健郎）

ろうそくをともしてクリスマスソングを歌う参加者

を声をそろえて合唱。

クリスマスにちなんで「ジングルベル」「きよしこの夜」、さらに同会メンバーによるゴスペル「アメイジング・グレイス」の歌唱もあり、ムードを演出。

「十勝毎日新聞」 2012年12月26日

生物の話や レプリカづくり

8、11日に
冬休み講座

【浦幌】町立博物館（町桜町、教育文化センターらぼろ21内）は、冬休み子ども博物館講座として8日に「楽しいお話しとクイズ」、11日に「化石レプリカづくり教室」を開く。ともに参加無料。

申し込み、問い合わせは同博物館（015・576・2009）へ。

▽楽しいお話しとクイズ
アカゲラBOXⅡ8日午

後1時。帯広百年記念館の学芸員が子供向けに自然環境と鳥、鳥と植物の関係、種や花粉を媒介する虫と植物の関係などを分かりやすく伝える。家族や友達同士での参加を呼び掛けている。

▽化石レプリカづくり教室Ⅱ11日午後1時。足寄動物化石博物館の澤村寛館長を講師に、アンモナイトや三葉虫などの化石レプリカを作るほか、ミニ発掘体験を行う。タオル持参。対象は小学生20人。幼児は保護者同伴で。8日までに申し込む。

「十勝毎日新聞」 2013年1月6日

アンモナイト化石発見

「こんな面白い岩の中で、よく形を残してくれた」。三笠市立博物館主任研究員でアンモナイト研究の専門家栗原憲一さんが、ほろほろに砕けた灰色の岩の破片を一つずつ取り除くと、しま模様様のパイプのような痕跡部分の化石が少しずつ浮かび上がってきた。8月9日、十勝で初のアンモナイト化石が姿を現した瞬間だった。

6550万年前、巨大隕石（いんせき）が地球に衝突して、恐竜やアンモナイトが絶滅した。その際に巻き上がった粉じんが堆積した地層「K/T境界（中生代と新生代の境界）層」の国内唯一の露出地が、浦幌町茂川流布もかわるつぶろにある。その近くにあった岩に「小さなしま模様が発見された。調査に行く」と浦幌町立博物館で聞いて、同博物館、三笠市立博物館、足寄動物化石博物館の共同調査に同行した。

現場は普段はゲートが閉



浦幌駐在 大笹 健郎



まっついて入れない道有林の奥。連日の雨で傷んだ林道を抜け、昼すぎに現地に着いた。アブの大量に襲われたが、栗原さんらは表情一つ変えずに作業を進め、バラバラに崩れた化石本体なぞを一片ずつ収集した。栗原さんは化石を持ち帰って復元作業を始めた。その取材で三笠市も訪れた。K/T境界直下で見つかった

今回の化石は、一般に知られる丸い形ではなく、「の」の字をつぶしたような姿のディプロモセラス科の一種だった。

アンモナイトは大きな渦巻き状の貝殻を持っているが、イカやタコと同じ頭足類の仲間だ。約4億年前の古生代デボン紀から、3億年以上にわたって世界中で生息していた。海の主役だった。それが突然、姿を消した。今回の化石は、絶滅した時に生息していた可能性もあり、専門家や化石ファンは「イカに近い仲間なら目が見える。天姿地翼を

生かしたい十勝の宝物



栗原主任研究員が岩の破片（アンモナイト化石の本体部分）を取り除くと、しま模様様の化石の痕跡部が現れてきた（8月9日）

この化石のアンモナイトはその目で見ていたかも知れない。想像力をかきたてられた。化石は来春にも、復元された姿が浦幌町立博物館で展示される。同博物館では近年、貝化石など、地球の自然の歴史の展示に力を入れてきた。K/T境界層以前の化石はこれまで十勝管内の物だったが、地元産でしかも学術的に貴重なアンモナイト化石が仲間に入ることに期待が高まる。

浦幌町では町の持つ魅力や資源を知り、誇りを育てる「ほろほろスタイル教育」が進められている。地球から贈られた新しい宝物を、子供たちはどう受け止めるのか。今後も見守っていきたい。

アカゲラ生態 小学生ら学ぶ 博物館講座に50人

【浦幌】町立博物館の冬休み子ども博物館講座「楽しいお話とクイズ〜アカゲラBOX」が8日、同博物館ロビーで開かれ、小学生ら約50人が和やかにアカゲラなどの生態を学んだ。帯広百年記念館の伊藤彩子学芸員と小林真樹博物館学芸資料調査員が講師となり、アカゲラの巣の実物標本を使って構造を説明したほか、アカゲラの尾羽と他の鳥の尾羽を比較し、キツツキが硬い尾羽と2本の足で木の幹に垂直につかまってい

られる秘密を解説。また、アカゲラが木に作った巣穴を他の鳥やモモンガ、ヘビなどが使うことを、クイズを取り入れながら楽しく学習した。

子供たちは巣穴の内部が意外に大きいことに驚いたり、「クチバシが『くまない』(忍者が使った両刃の刃物)のような形だね」と感想を話していた。(大笹健郎)



子供たちにアカゲラの生態を説明する小林さん(左)と伊藤さん

「十勝毎日新聞」 2013年1月13日

あす浦幌で 標本づくり教室

【浦幌】町立博物館講座「植物標本づくり教室」が14日午後1時から、同博物館で開かれる。講師は帯広百年記念館の持田誠学芸員。参加無料。植物は同博物館で用意する。電話帳か雑誌、新聞紙などを持参する。申し込みは町立博物館(015・576・2009)へ。

「十勝毎日新聞」 2013年1月13日

歩くスキーで海岸巡り

浦幌 来月2日自然体験

る。同海岸のトーチカ跡から十勝川河口までの氷雪原の上、往復約7キロを歩くスキーで移動しながら自然観察する。オジロワシやオオワシ、さらに

【浦幌】移動自然(厳寒)体験教室(町立博物館主催、東十勝ロングトレイル協議会協賛)が2月2日、豊頃町との境界にある豊北海岸で行われ

合し、各自の車で現地に移動。トーチカ周辺を発し、昼までに帰着、主催者で用意した豚汁で昼食を取る。持ち物は歩くスキー、たはスノーシュー、カンジキの他、おにぎり、飲料水、着替え、タオル、箸、おわん(豚汁用)などで、十分に寒さ対策も必要。定員は50人。申し込みは22日までに町立博物館(015・576・2009)へ。(大笹健郎)

「十勝毎日新聞」 2013年1月19日

【浦幌】町立博物館（佐 藤芳雄館長）の冬休み子ども博物館が開かれた。町内外も博物館講座「化石レプリカ作り参加最多」の家族連れなど約50人がア

化石に興味津々 レプリカ作り参加最多

浦幌町立博物館

アンモナイト効果？



化石について説明する足寄動物化石博物館の澤村館長（中央）と浦幌町立博物館の佐藤館長（右）

ンモナイトなど化石のレプリカ作りや同博物館の見学を楽しんだ。
昨年8月に町内で十勝初のアンモナイト化石が発見されたこともあり、過去最多の参加者となった。
講師は足寄動物化石博物館の澤村寛館長。アンモナイトや三葉虫、浦幌ゆかりのデスモスチルスの臼歯、肉食恐竜スピノサウルスの鋭い歯などの化石をかたどったゴム型に右こうを流し込んでレプリカを製作。土の塊の中から本物のアンモナイトやサメの歯などを削り出す「ミニ発掘体験」も行った。
空き時間には館内の展示室で、アンモナイトやウラボシシカイヒバリガイ、アロデスモスの化石を見学し、澤村館長からそれぞれの生態について説明を受けた。
参加した村上大介君（浦幌小3年）は「発掘体験が面白く、レプリカもうまく作れた」と笑顔で話していた。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2013年1月16日

千葉代表（前列中央）と生徒の作品が並ぶ展示会場



を題材にした、色鮮やかな作品が並んでいる。2月5日まで。千葉代表（幕別）が全国の孔版画愛好グループに声を掛け、毎年開いている。今回は「うらほろ孔版画サークル」（小山妙子会長）をはじめ、全国13ヶ

「巳」の年賀状
色鮮やかに
十勝孔版画の会
【浦幌】十勝孔版画の会（千葉定是代表 主催の「全国孔版画年賀状展」が、町教育文化センターらぼろ21（町桜町）の1階特別展示ホールで開かれている。今年の

ループの89人から計134点が集まった。
へびの姿をかわいらしく描いた作品や、平穏な一年を願う文章が添えられたものが多い。また、千葉代表の元に全国から寄せられた約200枚の年賀状も飾られている。午前10時～午後5時。入場無料。
（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2013年1月31日

雪原上の歩く スキー楽しむ

【浦幌】町立博物館の移動自然（厳寒）体験教室と東十勝ロングトレイル協議会（会長・萩原一利帯広建設業協会会長）の海のルート「雪原スキーと野鳥観察ツアー」が2日、町南部から豊頃町に続く豊北海岸で開かれた。約50人が雪原上の歩くスキーや海岸のトレッキングを楽しんだ。

浦幌、帯広から集まった参加者は午前10時すぎに同海岸のトーチカ跡を出発、氷雪原を歩くスキーで歩くコースと海岸を歩くコースに分かれ、十勝川河口までの往復約7キロの自然探索を楽しんだ。



雪原の中、歩くスキーを楽しむ参加者（山下僚撮影）

あいにくの濃霧で視界が悪かったが、天然記念物のオジロワシをはじめ、シロカモメやホオジロガモなどの野鳥や十勝川から無数の氷塊が砂浜に流れ着い

た様子を観察できた。帯広市からスキー仲間とともに参加した主婦吉田幸子さん（63）は「初めてだったがとても楽しく、来て良かった。豚汁もとてもおいしい」と笑顔で話していた。（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2013年2月5日

あす「らぽろ」で 歌声サロン開設

【浦幌】「懐かしい歌声喫茶の気分を」。町立図書館・博物館がある教育文化センターらぽろ21（町桜

町）に9日午後6時から、「歌声サロン」（町立博物館、図書館、中央公民館主催）が開設される。

昨年12月に初めて開催され、好評を得たことから、第2回を開く。楽器の生演奏に合わせて童謡や唱歌、フォークソングなどを歌う他、「コーヒーマ」も提供される。歌唱指導は「お話しぴあの会」。参加無料。問い合わせは同博物館（015・

「十勝毎日新聞」 2013年2月8日

576・2009）へ。

みんなでサイエンス

43

昨年8月上旬、十勝管内浦幌町にある町立博物館から一本の電話が入った。

「町内にある約6600万年前の地層の近くにアンモナイトの化石らしきものがある。見てもらえないか」

まさかとは思ったが、とりあえずその写真をメールで送っていただいて驚いた。間違いなくアンモナイトの化石である。保存状態があまり良くないようだったので、一刻も早く手を打たなければと翌日、大急ぎで浦幌町に向かった。

単にアンモナイトだ、

必然になった偶然

浦幌のアンモナイト

と言うだけなら珍しくない。ではなぜ、そんなに驚いたのか。

アンモナイトはイカやタコの仲間、今は化石でしか姿を見ることができない。約4億年前の古生代デボン紀から約6600万年前の白亜紀末ごろまで存在した生物だが、6600万年前と言えは、生物の大規模な絶滅が起きたとされるころだ。恐竜絶滅と同じ時期に当たる。その原因として考えられているのは、直径十数キロにも及ぶ巨大隕石の衝突による急激な環境変動である。

そして浦幌町は、この6600万年前の地層が連続的に分布していると



浦幌町の発掘現場とアンモナイト（白枠の中）。スケールの伸びた帯は長さ10m。発掘調査は浦幌町立博物館、足寄町立動物化石博物館、三笠市立博物館の共同作業だった

恐竜絶滅期の地層で発見

のアンモナイト産出である。現状では絶滅直前の、日本で最後のアンモナイトである可能性が高い。これは、日本を含む太平洋地域で、絶滅直前にどんな種類のアンモナイトが生息していたのかを知る貴重な資料である。それが驚きの原因だった。海外のアンモナイトと比べて同じ種類なのか違うのか、発見にどんな意義があるのか、それは今後の研究を待たなければならぬ。

さて、連絡をいただいた翌日の調査では、多くの方々の協力を得て何とかアンモナイトを保全することができた。ただし、元の状態が悪くはらばらだったため、今はバスルを組み合わせるように少しずつ復元を進めているところだ。

今回のアンモナイト発

見は、町立博物館が実施している「6600万年前の地層を観察する講座」のたまものだった。まさに「偶然の発見」だ。しかし、その偶然は間違いなく必然でもあったと思う。町立博物館は6600万年前の地層を町の宝と考え、毎年、子供たちや町民を対象に観察会を開いて意義を伝えていた。その継続的な活動がなければ、今回の偶然の発見はなかっただろう。貴重な標本を発見する確率は誰にとっても同じで非常に低い、何度も足を運ばばそれだけ発見のチャンスが増えるからだ。あれは、偶然を必然とする発見だった。

員

（北海道自然史研究会会
員・栗原憲一＝三笠市立
博物館主任研究員・学会

「北海道新聞」 2013年2月7日

マイたうん 札幌巻

■浦幌 歌声サロン和やかに

教育文化センターらぼろ21の「歌声サロン」（浦幌町立博物館・図書館・中央公民館主催）が9日、同センターロビーで開かれた＝写真。

コーヒーやお茶菓子も提供され、気分は「歌声喫茶」に。「お話しぴあの会」（西田祐子代表）の指導により、「冬景色」などの唱歌や、「青春時代」、札幌五輪のテーマ曲「虹と雪のバラード」などを歌い、和やかな時間を過ごした。



「十勝毎日新聞」 2013年2月12日

時代の変遷を実感 浦幌でひな人形展

【浦幌】町立博物館主催の収蔵資料展「ひな人形展」が、同館のある教育文化センターらぼろ21（町桜町）ロビーで開かれている。3月3日まで。

昭和初期の御殿雛（びな）から、最近の七段飾りや卓上タイプまで8点を展示。時代とともに移り変わる人形の材質、表情や飾り物の



昭和初期のひな人形に見入る子供たち

「十勝毎日新聞」 2013年2月25日



境准教授のグループが製作、町立博物館に展示されている津波堆積物の標本

過去の大津波を
海洋堆積物で知る
来月4日に講演会

【浦幌】巨大津波の痕跡の地層を研究している道教育大釧路校の境智洋准教授を招いた講演会「浦幌の海洋堆積物から知る過去の大津波」が、3月4日午後7時半から町立博物館（町桜

町、教育文化センターらぼる21）で開かれる。

「うらほろスタイルゼミナール」として実施。境准教授の研究室は現在、2010年5月16日に町南西部のヌタベツト地区の湿原（海岸から約1100㍎）で採取した地層の標本を同博物館で展示している。標本では17世紀の樽前山

や駒ヶ岳噴火の火山灰と、9世紀ごろの白頭山噴火によって積もった火山灰の間に2度、津波が運び込んだと考えられる海成砂層が堆積しているのがよく分かる。

砂層は17世紀、13世紀のものともみられ、400～500年の間隔で大津波が来襲していることを示している。詳細な解説ハネルも展示されている。

当日はこの標本を使って発生が予測される巨大地震について考察するほか、地震津波の対策などについて講演する予定。参加無料。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2013年2月27日

あす国際文化交流事業発表会

【浦幌】青少年国際文化交流事業発表会「サーミの人々との交流を語る」（町立博物館、町中央公民館、道アイヌ協会浦幌支部主

催）が、9日午後7時から町中央公民館（桜町）で開かれる。

同事業はアイヌ文化振興・研究推進財団が昨年8月に実施した。発表会では、浦幌から参加した町アイヌ生活相談員の桃井里奈さんが語る。フィンランドのサーミの人々とアイヌ文化の共通点、違いを学ぶ。

うらほろスタイルゼミナールの一環。参加無料。問い合わせは町中央公民館（015・576・2127）へ。

「十勝毎日新聞」 2013年3月8日

先住民の行動 見習い次世代に

フィンランド訪問

桃井さん体験発表

【浦幌】青少年国際文化交流事業発表会「サーミの人々との交流を語る」（町立博物館、町中央公民館、道アイヌ協会浦幌支部主催）が9日、町中央公民館で開かれ、町アイヌ生活相談員の桃井里奈さん（22）

サーミの人たちとの交流について語る桃井さん



がフィンランドで先住民と交流した体験を語った。

桃井さんは同事業の一員として1月6～12日の日程

でフィンランドのラップランド州イナリ市で現地のサーミ民族と交流した。サーミの子供たちが通い、サーミ語を習う「言葉の巣」という施設を訪問。サーミの3つの言葉の中でも話者の少ないイナリ

サーミ語を普及・復興させる取り組みを見学した。桃井さんはサーミの若者協会の人たちとの交流の中

で、文化伝承活動の他、伝統の歌を現代風にアレンジしてロックで世界に広めたり、サーミ語で映画やアニメを作ったりするといった前向きな姿勢に共感。「アイデンティティを次世代につないでいくには若者の行動力が必要。どんどん見習って行動していかなければという気持ちになった」と成果を語った。

（大笹健郎）

「十勝毎日新聞」 2013年3月14日

XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

○浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例

(平成11年9月20日条例第20号)

(目的)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2の規定に基づき、浦幌町教育文化センター（以下「センター」という。）の設置及び管理等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(設置)

第2条 センターは、町民の教育文化の振興発展と学術の向上を図るため設置する。

(名称及び位置)

第3条 センターの名称及び位置は、次のとおりとする。

名称 浦幌町教育文化センター

位置 浦幌町字桜町16番地の1

(教育機関)

第4条 センター内に次の教育機関を置く。

(1) 浦幌町立図書館（以下「図書館」という。）

(2) 浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）

(図書館奉仕)

第5条 図書館は、おおむね次の各号に掲げる奉仕を行う。

(1) 図書、記録及びその他必要な資料（以下「図書館資料」という。）を収集し、町民の利用に供すること。

(2) 図書館資料の目録を整備すること。

(3) 図書館資料について、その利用のための相談に応ずること。

(4) 読書会及び研修会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。

(5) 時事等に関する情報及び参考資料を紹介し及び提供すること。

(6) 学校、博物館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(図書館の職員)

第6条 図書館に館長及び司書、その他必要な職員を置く。

(図書館協議会)

第7条 図書館に浦幌町立図書館協議会（以下「図書館協議会」という。）を置く。

2 図書館協議会は、図書館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。

3 図書館協議会の委員（以下「委員」という。）は、10名以内とし、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから教育委員会が委嘱する。

4 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

5 補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(博物館の事業)

第8条 博物館は、おおむね次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) 実物、標本及びその他必要な資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示すること。
- (2) 博物館資料を博物館外で展示すること。
- (3) 博物館資料の利用に関し必要な説明及び指導等を行い、又は研究室等を利用させること。
- (4) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究及び保管、展示等の技術的研究を行うこと。
- (5) 博物館資料に関する案内書及び解説書等を作成し、頒布を行うこと。
- (6) 博物館資料に関する講演会及び研究会等を開催するとともに、その奨励を行うこと。
- (7) 浦幌町にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書及び目録を作成し、町民の文化財の利用の便を図ること。
- (8) 学校、図書館、公民館等と緊密に連絡し、協力すること。

(博物館の職員)

第9条 博物館に館長及び学芸員、その他必要な職員を置く。

(博物館協議会)

第10条 博物館に浦幌町立博物館協議会（以下「博物館協議会」という。）を置く。

- 2 博物館協議会は、博物館の管理運営に関し必要な事項について調査審議するものとする。
- 3 博物館協議会の委員の定数及び任期等については、第7条第3項から第5項の規定を準用する。

(報酬及び費用弁償)

第11条 委員が会議等に出席したとき又は公務により旅行したときは、非常勤特別職の職員の報酬等に関する条例（昭和31年浦幌町条例第19号）に定めるその他の委員会、協議会に相当する報酬及び費用弁償を支給する。

(利用の制限)

第12条 館長は、次の各号の一に該当する場合は、利用を禁止し、制限し、又は退館させることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められるとき。
- (2) 建物又はその設備を滅失し、損傷するおそれがあると認められるとき。
- (3) 集団的に又は常習的に暴力的不法行為を行うおそれがある組織及びその構成員の利益になると認められるとき。
- (4) その他管理運営上支障があると認めたとき。

(損害賠償の義務)

第13条 利用者が建物及び設備又は図書館資料若しくは博物館資料をき損、汚損又は滅失したときは、教育委員会が定める損害額を賠償しなければならない。

(規則への委任)

第14条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は教育委員会規則で定める。

附 則

- 1 この条例は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例（昭和44年浦幌町条例第21号）は、廃止する。

○浦幌町立博物館の管理、運営等に関する教育委員会規則

(平成11年12月1日教育委員会規則第4号)

(目的)

第1条 この教育委員会規則は、浦幌町教育文化センターの設置及び管理等に関する条例（平成11年浦幌町条例第20号。以下「条例」という。）第4条第2号に規定する浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の管理、運営等について必要な事項を定めることを目的とする。

(博物館協議会)

第2条 浦幌町立博物館協議会（以下「協議会」という。）の組織等については、浦幌町立図書館の管理、運営等に関する教育委員会規則（平成11年浦幌町教育委員会規則第3号）第2条の規定を準用する。

(開館時間)

第3条 常設展示室の開館時間は、午前10時から午後5時までとする。

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときはその時間を臨時に変更することができる。

(休館日)

第4条 常設展示室の休館日は次のとおりとする。

- (1) 月曜日（月曜日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「国民の休日」という。）の場合は、その翌日）
- (2) 国民の休日の翌日。ただし、土曜日、日曜日及び国民の休日に当たるときを除く
- (3) 年末年始
- (4) その他館長が必要と認めた日

2 前項の規定にかかわらず、館長が必要と認めたときは休館日を臨時に変更することができる。

(常設展示室利用者の遵守事項)

第5条 利用者は、この教育委員会規則及び館長の指示に従うほか、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 許可なく博物館資料を撮影し、又は複製しないこと。
- (2) 許可なく展示資料に手を触れないこと（特に指定した展示品を除く。）。
- (3) 音読、高談その他騒がしい行為をしないこと。
- (4) 飲食又は喫煙をしないこと。
- (5) 展示品の近くでインク、墨汁等を使用しないこと。

(博物館資料の寄贈等)

第6条 博物館は、博物館資料の寄贈又は寄託を受けることができる。

2 博物館に博物館資料を寄贈又は寄託しようとする者は、浦幌町財務規則（昭和60年浦幌町規則第12号）第158条の規定にかかわらず館長に博物館資料寄贈（寄託）申込書（別記様式第1号）を提出し、承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の提出があったときは遅滞なくその取扱いについて決定し、寄贈を受ける場合はその資料と引換えに博物館資料受領証（別記様式第2号）を寄贈者に交付しなければならない。また、寄託した者に対しては博物館資料受託証（別記様式第3号）を交付するものとする。

4 寄贈された博物館資料は理由のいかんを問わず返還しない。

(寄託博物館資料の返還)

第7条 寄託博物館資料は、博物館資料受託証と引換えに返還しなければならない。

(寄託博物館資料の損失責任)

第8条 博物館は、寄託された博物館資料が滅失若しくは紛失又は破損してもその責は負わないものとする。

(館外利用)

第9条 館長は、教育長の承認を得て、博物館の所蔵する博物館資料を他の博物館その他館長が適当と認めた者に館外貸出しをすることができる。ただし、寄託を受けた博物館資料については、原則として貸し出さないものとする。

(貸し出し期間)

第10条 前条に規定した博物館資料の貸し出し期間は、90日以内とする。

2 前項の規定にかかわらず、特に必要と認めたときは、博物館資料の貸し出し期間を延長することができる。

3 館長は、必要があるときは、貸し出し期間中であっても、博物館資料の返還を求めることができる。

(館外貸出しを受けた博物館資料の遵守義務)

第11条 博物館資料の貸出しを受けた者は、当該博物館資料を、承認を受けた利用の目的又は場所以外の目的又は場所以外で利用してはならない。

2 貸出しの許可を受けた者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 当該博物館資料が滅失し、又はき損したときは、当該博物館資料を原状に回復し、及びそれによって生じた損害を賠償すること。
- (2) 当該博物館資料等の運搬及び維持管理に要する経費を負担すること。
- (3) 承認を受けた利用目的又は利用の場所を変更しないこと。
- (4) 貸出し満了期間までに指定された場所に返納すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか館長が指示する事項。

(博物館資料の特別利用)

第12条 博物館資料を学術上の研究その他の目的のため撮影、複写、模写又は模造（以下「特別利用」という。）を行おうとする者は、あらかじめ、特別利用申請書（別記様式第4号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を求めなければならない。

2 前項の規定により特別利用を承認したときは、特別利用承認書（別記様式第5号）を交付するものとする。

3 前項の場合において、当該博物館資料が寄託を受けたものであるときは、文書により寄託者の承諾を得なければならない。

4 特別利用は、館長の指示に従って行わなければならない。

(模写品等の刊行等の承認)

第13条 博物館資料を模写し、模造し、撮影し、又は複写したもの（以下「模写品等」という。）を刊行し、若しくは複製し、又は研究発表等に使用しようとする者は、あらかじめ、模写品等使用申請書（別記様式第6号）又はそれに類する書類を館長に提出し、承認を受けなければならない。

2 館長は、模写品等の使用を承認したときは、模写品等使用承認書（別記様式第7号）を交付するものとする。

(委任)

第14条 この教育委員会規則に定めるもののほか必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この教育委員会規則は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 浦幌町郷土博物館設置条例施行規則（昭和44年浦幌町教育委員会規則第1号）は、廃止する。
- 3 旧教育委員会規則により現に、収集、保管及び館外貸出し等されている博物館資料は、この教育委員会規則に基づき収集、保管及び貸出し等されているものとみなす。

別記様式第1号

博物館資料寄贈（寄託）申込書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
住所 _____		
氏名 _____ 印		
次のように、博物館資料を寄贈（寄託）したいので申し込みます。		
記		
1 寄贈、寄託資料		
資 料 名	数 量	摘 要
2 寄託の場合、寄託期間 年 月 日 から 年 月 日		

別記様式第2号

博 物 館 資 料 受 領 証		
年 月 日		
(申 込 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
寄贈の申込みのあった次の資料を受領します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、 学術資料として有効に活用させていただきます。		
記		
1 寄贈資料		
資 料 名	数 量	摘 要

別記様式第3号

博 物 館 資 料 受 託 証		
年 月 日		
(申 込 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
寄託の申込みのあった次の資料を受託します。今後は、申込みの趣旨を尊重し、 学術資料として有効に活用させていただきます。		
記		
1 受託資料		
資 料 名	数 量	摘 要
2 受託期間 年 月 日 から 年 月 日		
※寄託資料の返還は、この受託証と引換えに行います。		

別記様式第4号

特 別 利 用 申 請 書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
申請者 住所 _____		
氏名 _____ 印		
次のように浦幌町立博物館資料を特別利用したいので、申請します。		
記		
利用目的		
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)	
利用方法	閲覧・複写・模造・撮影・複写・その他 ()	
利 用 資 料 名	点 数	備 考

XII. 条例、教育委員会規則、教育委員会規程

別記様式第5号

特 別 利 用 承 認 書		
年 月 日		
(申 請 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料の特別利用を、次のように承認します。		
記		
利用目的		
利用期間	年 月 日 ～ 年 月 日 (日間)	
利用方法	閲覧・模写・模造・撮影・複写・その他 ()	
利 用 資 料 名	点数	備 考
注意 1 利用時間は、午前10時から午後5時までとする。 2 利用に当たっては、係員の指示に従うこと。 3 前項に違反したときは、承認を取り消すことがある。		

別記様式第6号

受付番号		第 号
模 写 品 等 使 用 申 請 書		
年 月 日		
浦幌町立博物館長 様		
申請者 住所 (法人又は団体にあつては主たる事務所所在地)		
氏名 (法人又は団体にあつては名称及び代表者氏名) 印		
電話		
次のように浦幌町立博物館資料の模写等をしたので、申請します。		
記		
使 用 目 的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作 品 名		
製 作 数		
予 定 価 格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模 写 等 資 料 名		
注) 刊行企画書、複製仕様書、研究発表会の開催要項等の参考資料があれば添付して下さい。		

別記様式第7号

承認番号		第 号
模 写 品 等 使 用 承 認 書		
年 月 日		
(申 請 者) 様		
浦幌町立博物館長 印		
年 月 日申請の浦幌町立博物館資料模写等を、次のように承認します。		
記		
使 用 目 的		
模 写 等 区 分	模写・模造・撮影・複写	
製 作 等 区 分	刊行・複製・研究発表等	
作 品 名		
製 作 数		
予 定 価 格	有料 (円) ・ 無料	
製作予定年月日	年 月 日	
模 写 等 資 料 名		
注) 1 上記使用目的以外に使用しないこと。 2 使用に際しては、浦幌町立博物館所蔵の旨を明記すること。		

○浦幌町立博物館処務規程

(平成11年12月1日教育委員会規程第2号)

改正 平成13年6月29日教委訓令第5号

平成15年6月30日教委訓令第3号

(目的)

第1条 この教育委員会規程は、浦幌町立博物館（以下「博物館」という。）の機構と事務処理上必要な事項を定めることを目的とする。

(職員の職)

第2条 博物館に館長及び学芸員を置き、必要に応じて係長、主任、主査、主事その他の職員及び学芸員補を置くことができる。

(任免)

第3条 前条に規定された博物館の職員の任免は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第34条の規定に基づき、教育長の推薦により、教育委員会が行う。

(服務)

第4条 博物館の職員の服務は、別に定めるものを除き、浦幌町教育委員会事務局職員の例による。

(職務の分掌)

第5条 館長は、上司の命を受けて、館務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

2 学芸員は、上司の命を受け、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第4条第4項に規定する職務を行う。

3 係長は、上司の命を受け、係の事務を処理する。

4 主任は、上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。

5 主査は、上司の命を受け、担当事務を処理する。

6 主事及びその他の職員は、上司の命を受け、事務をつかさどる。

7 学芸員補は、法第4条第6項に規定する職務を行う。

(係の設置)

第6条 博物館に博物館係を置く。

(事務の分掌)

第7条 博物館係は、次の事務をつかさどる。

- (1) 公印の管守に関すること。
- (2) 人事、経理、文書その他庶務に関すること。
- (3) 浦幌町立博物館協議会に関すること。
- (4) 予算及び決算に関すること。
- (5) 物品の出納及び管理に関すること。
- (6) 施設設備の管理に関すること。
- (7) 博物館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- (8) 博物館資料の説明及び助言等に関すること。
- (9) 博物館資料の調査研究に関すること。

- (10) 博物館資料の案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等の作成及び配布に関すること。
- (11) 博物館事業の広報に関すること。
- (12) 博物館事業の企画運営に関すること。
- (13) その他博物館運営及び博物館資料に関する専門的事項に関すること。

第8条 削除

第9条 削除

(専決)

第10条 館長は、他に定めのあるものを除き、次の各号に掲げる事務について専決することができる。

- (1) 施設設備の使用及び管守に関すること。
- (2) 専用公印の管守に関すること。
- (3) 関係団体の育成及び指導等に関すること。
- (4) 博物館の行う恒例又は軽易な事業の企画運営に関すること。
- (5) 前各号に準ずる軽易な事務処理に関すること。

第11条 前条各号に掲げる事項であっても、特に重要な事項又は取扱上異例に属する事項若しくは疑義のある事項の処理については、教育長の承認を受けて処理しなければならない。

(事業計画及び事業実績報告等)

第12条 館長は、当該年度に実施すべき年間の事業計画を教育長が別に定める日までに届け出るものとする。

第13条 館長は、当該年度に実施された年間の事業実績報告等を教育長が別に定める日までに報告しなければならない。

(帳簿)

第14条 博物館には、次の各号に掲げる簿冊を備え付け、常に適正に記帳、整備しなければならない。

- (1) 博物館日誌（別記様式第1号）
- (2) 備品台帳（収蔵されている博物館資料を除く。）
- (3) 図書台帳
- (4) 旅行命令簿
- (5) 経理簿
- (6) 会議日誌
- (7) 出勤簿
- (8) 公文書綴り
- (9) 沿革史
- (10) 博物館資料寄贈申込台帳
- (11) 博物館資料寄託申込台帳
- (12) 博物館資料受入台帳（別記様式第2号）
- (13) その他館長が必要と認めた簿冊

(合議)

第15条 館長は、事務執行上異例又は重要と認められるものは、教育委員会事務局の関係課長等と合議しなければならない。

(公印)

第16条 博物館の文書に用いる印章（以下「公印」という。）は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 浦幌町立博物館協議会長の印
 - (2) 浦幌町立博物館の印
 - (3) 浦幌町立博物館長の印
- 2 前項の公印は、館長が保管する。
 - 3 公印の規格、定位置及び定数は、別表のとおりとする。
 - 4 公印の刻字面の様式は、別記様式第3号のとおりとする。

(文書の記号)

第16条の2 文書の記号は、教育委員会名及び博物館名をもって構成する。

- 2 前項の記号は、次のとおりとする。

浦博物館

(博物館資料の受入れ)

第17条 博物館で受け入れた資料は、博物館資料受入台帳に所定の事項を記入し、その資料の由来等を調査後、速やかに博物館資料記録票を作成しなければならない。

第18条 前条の博物館資料には、その由来等を明らかにするために博物館資料整理カード（別記様式第4号）を貼付しなければならない。ただし、それによりがたい場合は、その他適当な方法でその由来等を明らかにしなければならない。

(準用規定)

第19条 この教育委員会規程に定めるもののほか、必要な事項は浦幌町教育委員会事務局処務規程（平成13年浦幌町教育委員会訓令第2号）を準用する。

(読替え規定)

第20条 浦幌町教育委員会事務局処務規程を準用する場合、「課長」とあるのを「館長」と読み替えるものとする。

附 則

- 1 この教育委員会規程は、平成11年12月1日から施行する。
- 2 この教育委員会規程施行の際に現に使用中の別記様式は、当分の間、従前のものを使用することを妨げない。

附 則（平成13年6月29日教委訓令第5号）

この教育委員会訓令は、公布の日から施行する。

附 則（平成15年6月30日教委訓令第3号）

この教育委員会規程は、平成15年7月1日から施行する。

別表（第16条第3項関係）

種 別	規 格	定数	定 位 置	個数	摘 要
浦幌町立博物館協議会長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館の印	30ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）
浦幌町立博物館長の印	18ミリメートル四方	1	博物館管理係	1	古天（横書き）

別記様式第1号

決裁	館長	回	議	係	合	議
年 月 日 () 天 候						
寄贈等	博物館資料の寄贈		寄贈者	住所	品名数量等	
	博物館資料の寄託		寄託者	住所	品名数量等	
	博物館資料の返還		受領者	住所	品名数量等	
事業等	事業名			～	特記事項	
	事業名			～	特記事項	
来館者	所属氏名			所属氏名		
	所属氏名			所属氏名		
団体入館者	団体名			人数	特記事項	
	団体名			人数	特記事項	
	団体名			人数	特記事項	
職員動静	氏名	旅行先		目的		
備考						

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第2号

要 摘									
収蔵番号									
分類番号									
寄贈者等住所・氏名									
受入方法									
受入年月日									
品名									
受入番号									

浦 幌 町 立 博 物 館

別記様式第3号

1 浦幌町立博物館協議会長の印



2 浦幌町立博物館の印



3 浦幌町立博物館長の印



別記様式第4号

○	
浦幌町立博物館	
受入番号	—
収蔵番号	—
分類番号	
受入年月日	年 月 日
資料名	
寄贈者等名	
寄贈者等住所	
受入方法	寄贈・採集・発掘・寄託 製作・購入・複製・その他
摘要	

注) 1 年号は西暦で記載すること。
2 「受入方法」は、適当なものを○で囲むこと。

XIII. 平成24年度予算

10款 教育費 5項 社会教育費 3目 博物館費

(単位:千円)

当 初 予算額	補正額	計	節		説 明
			区 分	金 額	
1,725	0	1,725	1 報 酬	25	委員報酬 25
			8 報償費	185	報償金 185
			9 旅 費	83	費用弁償 0
					普通旅費 83
			11 需用費	1,168	消耗品費 500
					印刷製本費 590
					光熱水費 18
					修繕料 50
					賄材料費 10
			12 役務費	94	通信運搬費 84
					手数料 10
			15 工事請負費	0	工事請負費 0
			16 原材料費	10	原材料費 10
			18 備品購入費	57	備品購入費 57
			19 負担金、補助及び交付金	28	北海道博物館協会負担金 15
					帯広百年記念館運営連絡協議会負担金 3
					道東3管内博物館施設等連絡協議会負担金 5
					研修会参加負担金 0

浦幌町立博物館年報 第14号

発行日 2013年11月30日

編集 佐藤芳雄

発行所 浦幌町立博物館
〒089-5614 北海道十勝郡浦幌町字桜町16番地1
電話 015-576-2009 FAX. 015-576-2452

印刷所 大同出版紙業株式会社
〒080-0017 北海道帯広市西7条南6丁目2番地